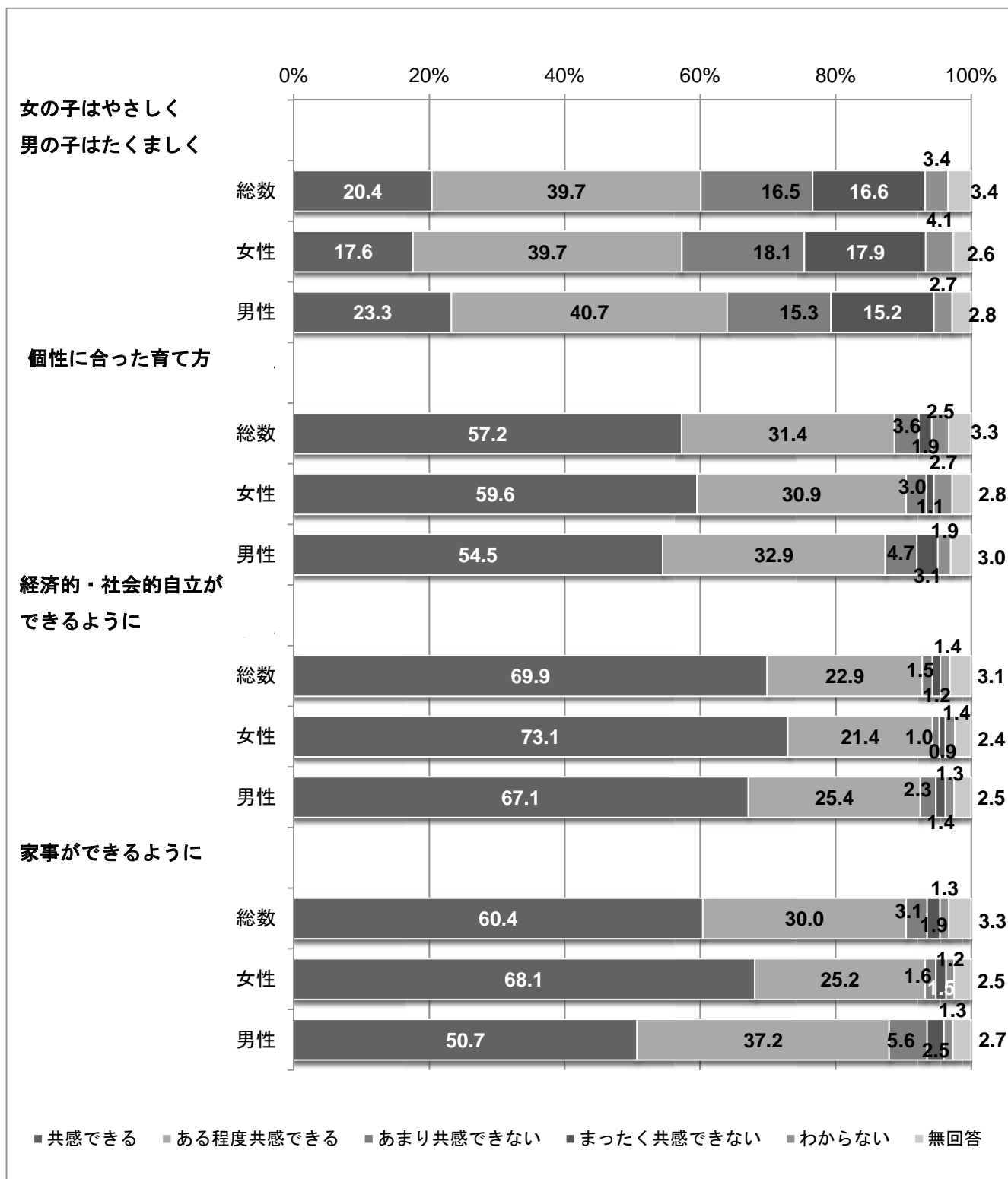


問7 あなたは、子供の育て方について、どのように考えていますか。次のそれぞれについて当てはまる数字を選んでください。

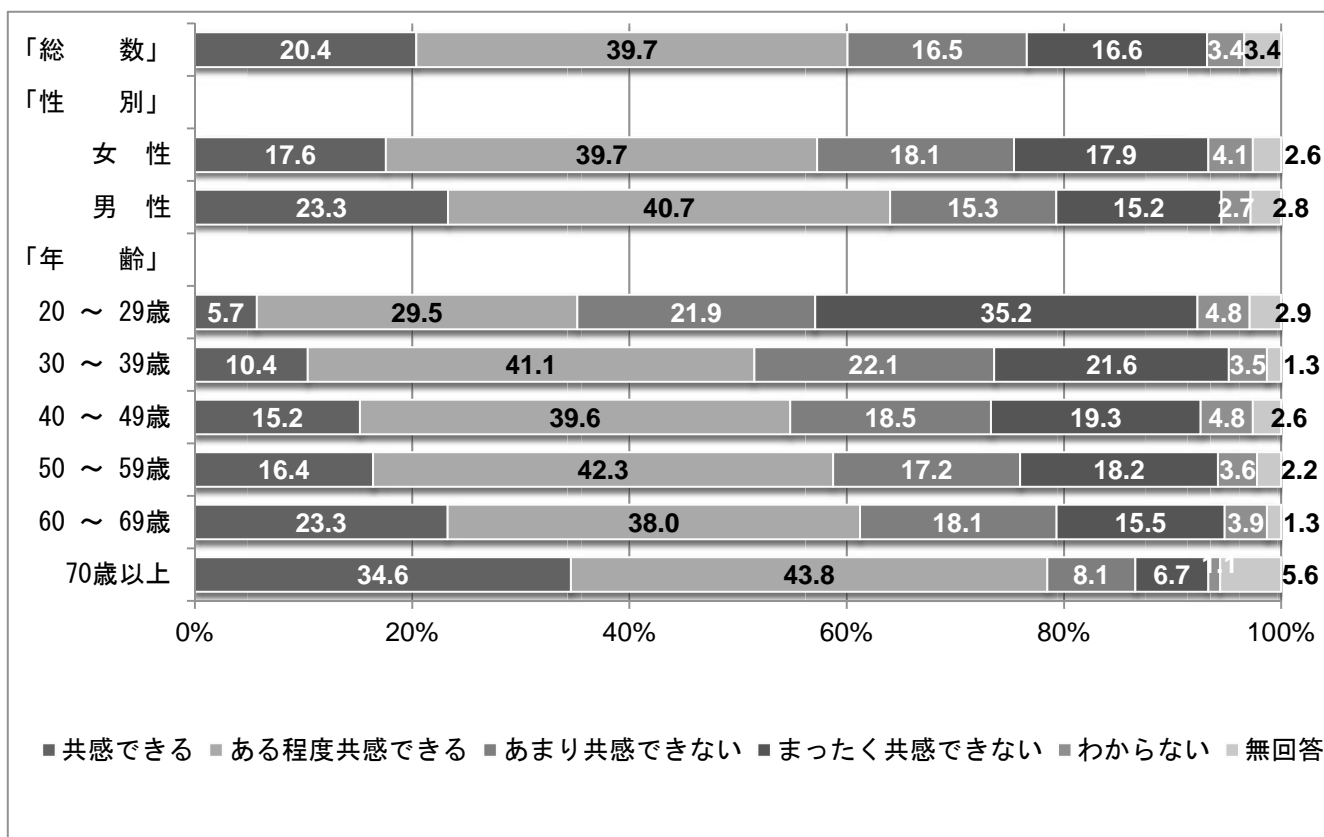


【全体】

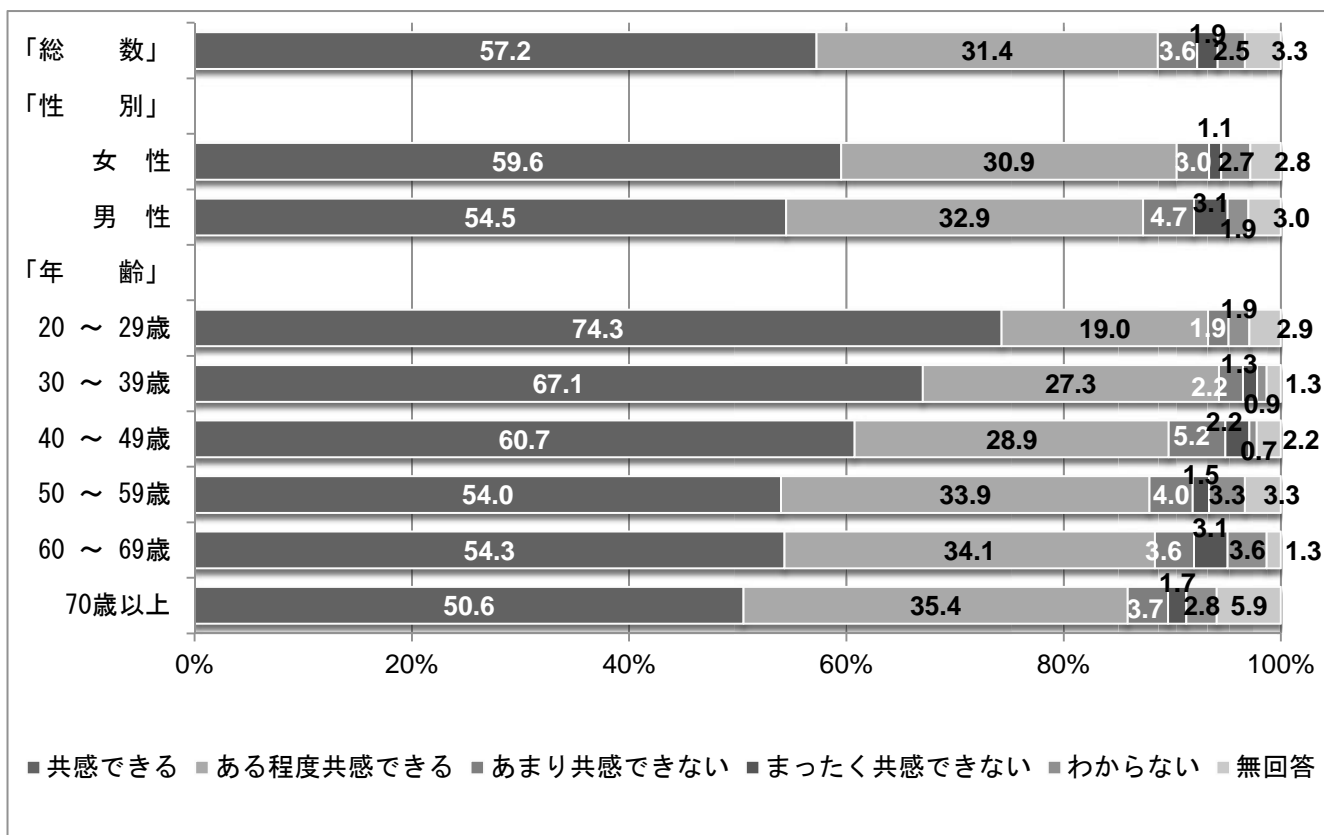
子供の育て方に関する考え方のうち、「共感できる」の回答が多かったのは、「経済的・社会的自立ができるように育てる」（69.9%）、「家事ができるように育てる」（60.4%）、「性別にとらわれず個性に合った育て方をする」（57.2%）である。

前回調査と比較してみると、「女の子はやさしい子、男の子はたくましい子に育てる」といった考え方について、「（ある程度）共感できる」とする者の割合が6.8ポイント（66.9%→60.1%）低下し、「（あまり）共感できない」とする者の割合が4.4ポイント（28.7%→33.1%）上昇している。

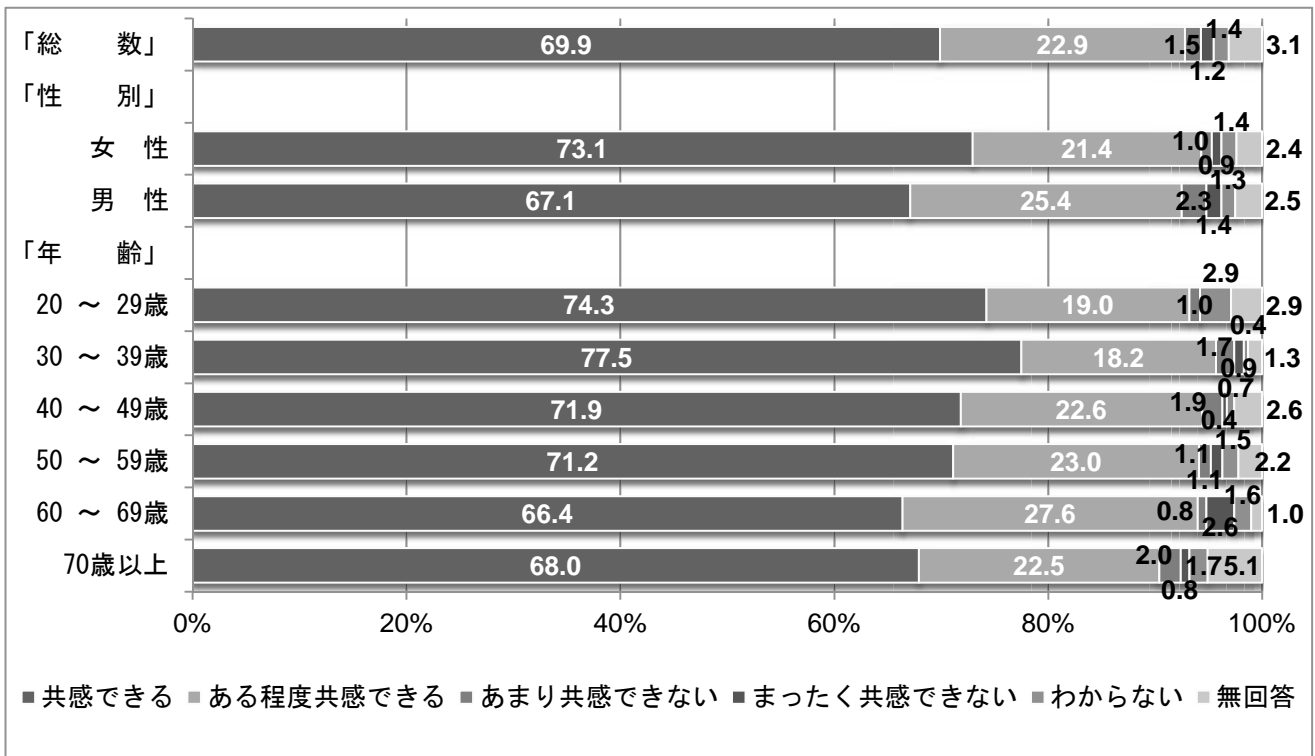
(1) 女の子はやさしい子、男の子はたくましい子に育てる方がよい



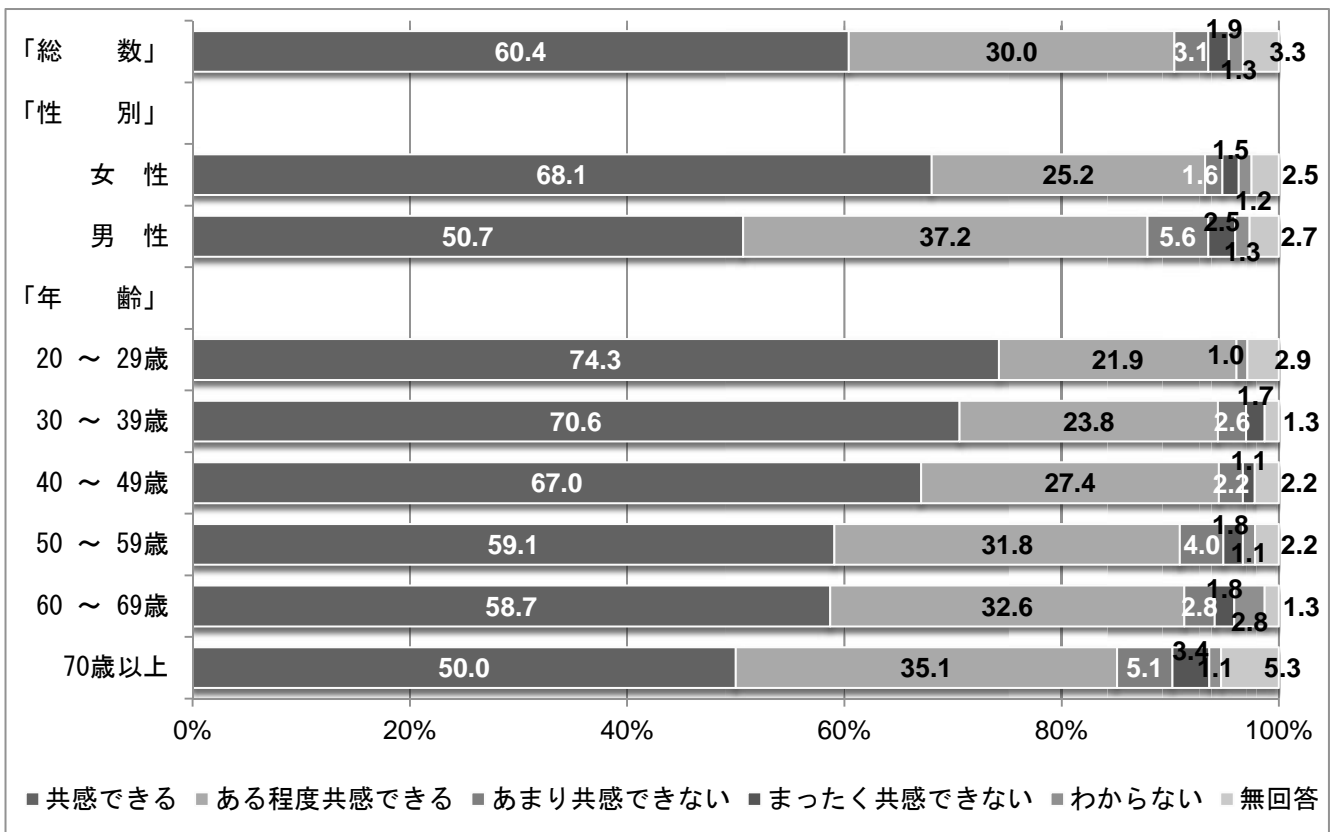
(2) 女の子、男の子にとらわれず、個性に合った育て方をした方がよい



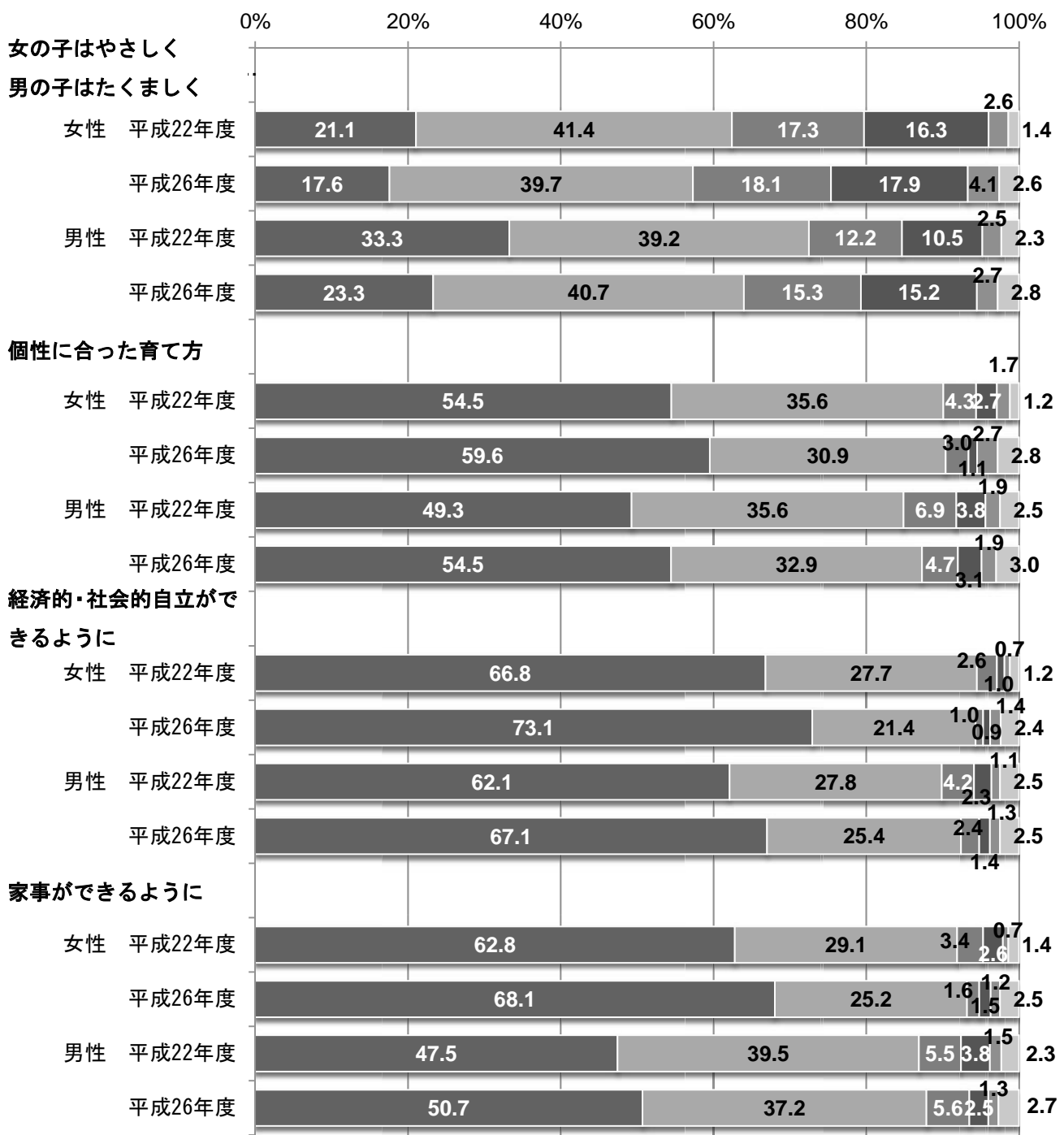
(3) 女の子も男の子も経済的、社会的自立ができるように育てる方がよい



(4) 女の子も男の子も、家事ができるように育てる方がよい

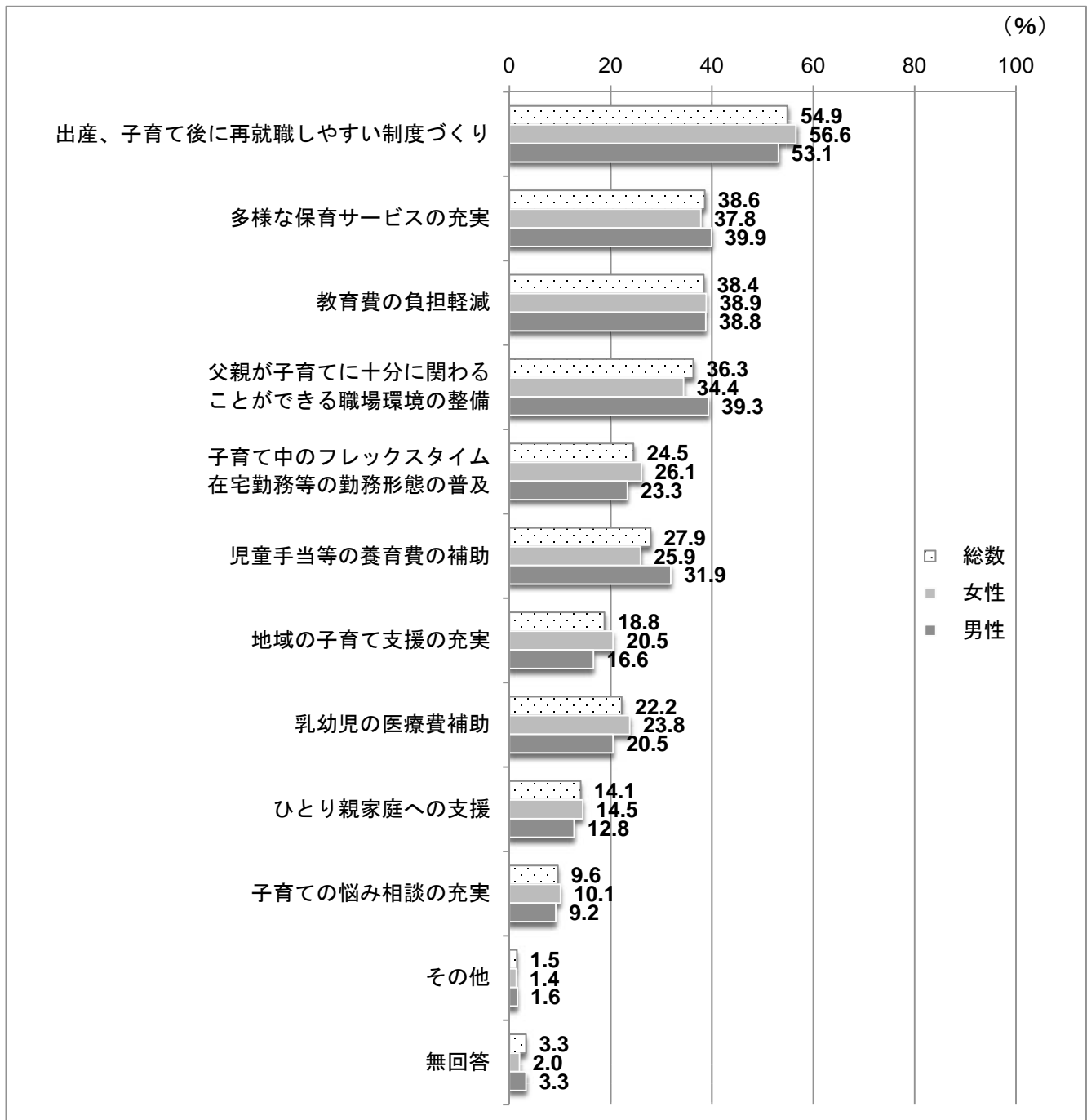


前回調査（平成22年度）との比較



■ 共感できる ■ ある程度共感できる ■ あまり共感できない ■ まったく共感できない ■ わからない ■ 無回答

問8 あなたは、安心して子どもを産み育てるためには、何が必要だと思いますか？
特に当てはまるものを3つまで選んでください。



○その他意見

- 1 親となる覚悟、心得姿勢の教育
- 2 税金が高すぎて、民間企業に勤めている場合は経済的余裕がない。
- 3 収入が少ないため、生活ができない
- 4 出産後も仕事を続けられるような環境
- 5 派遣撤廃、終身雇用、国の借金減少、平和、希望的未来
- 6 双子育児の経済的な補助
- 7 出産・子育て中の職場環境整備
- 8 子供をつれていけば、乗車時とかスーパーのレジとか優先的にして子供がいれば得をするような地域づくり

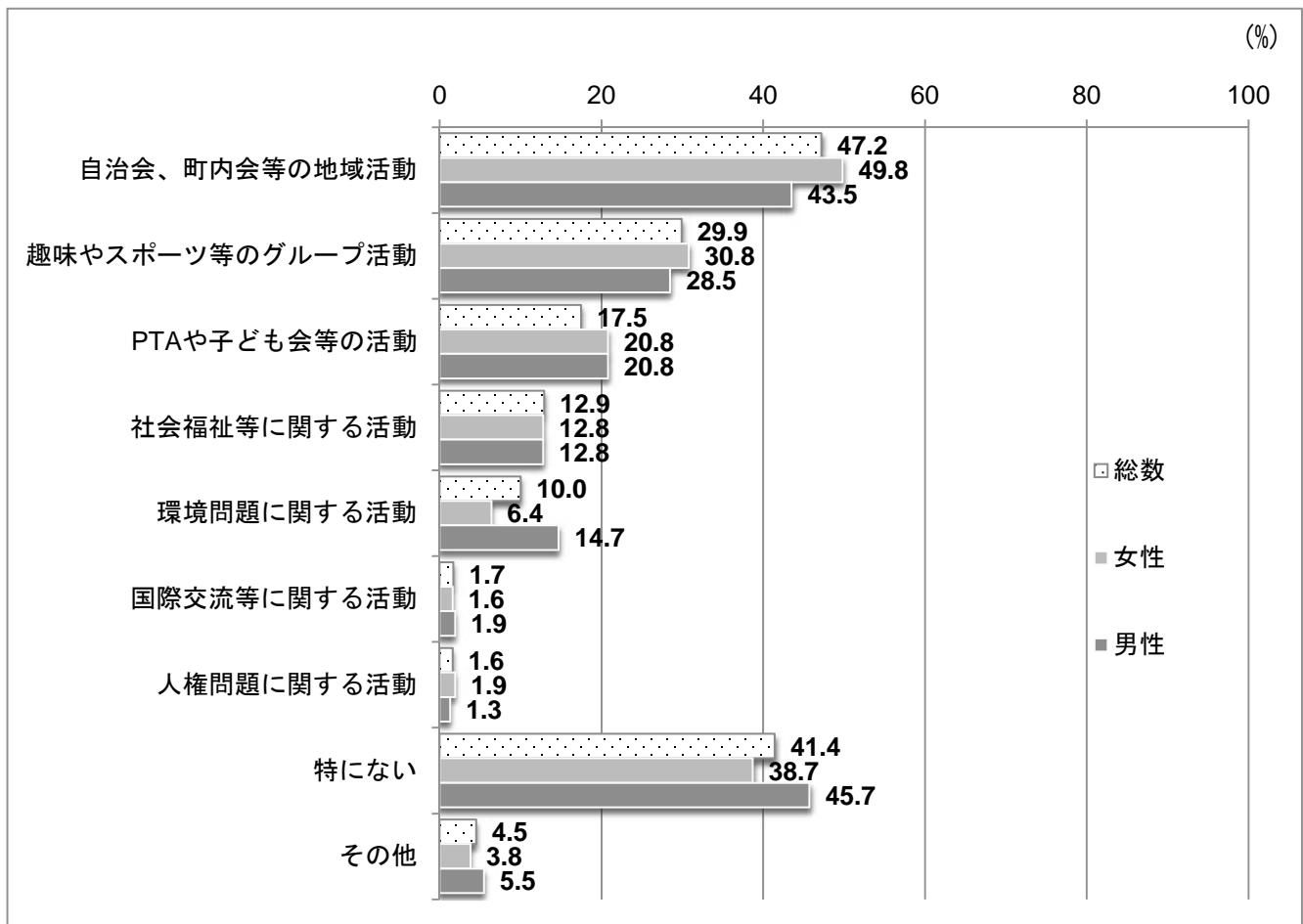
- 9 自営業家庭への支援の充実、会社員妻同様年〇万未満等扶養制度が必要！！
- 10 生活環境の安全・交通マナー
- 11 学校教育での性教育や不妊に関する充実した内容の授業
- 12 各家庭の事情により支援することが望ましい
- 13 地域の子育て支援の充実、児童手当等の養育費の補助、ひとり親家庭への支援が全部必要
- 14 現在の有権者（特に人口分布の多い年齢層に手厚い）にのみ視線を向ける行政ではなく 50 年後にどう孫、ひ孫にこの国を渡すのかの意思と取組（イメージ）

【全体】

子どもを生み育てるのに必要な事柄のうち、回答が多かったのは、「出産、子育て後に再就職しやすい制度づくり」を挙げた者の割合が54.9%と最も高く、以下、「多様な保育サービスの充実」（38.6%）、「教育費の負担軽減」（38.4%）、「父親が子育てに十分に関わることができる職場環境の整備」（36.3%）などの順となっている。

地域活動への参加・学校教育について

問9 あなたは、いまどのような地域活動をしていますか。特に当てはまるものを3つまで選んでください。



○その他意見

- 1 高齢者交通指導員
- 2 防犯暴力団排除の警察と連携した社会活動
- 3 子供の美德を育てるプログラムを実施一か月に一度まなびかん
- 4 消防団員
- 5 小規模企業の組合活動
- 6 ボランティア
- 7 手話
- 8 時々、清掃活動に参加
- 9 下校時、生徒たちの見守り隊
- 10 募金・献血
- 11 朝のウォーキング（約1時間）
- 12 地元の芸術家への支援
- 13 民生児童委員
- 14 老人ホームへ慰問

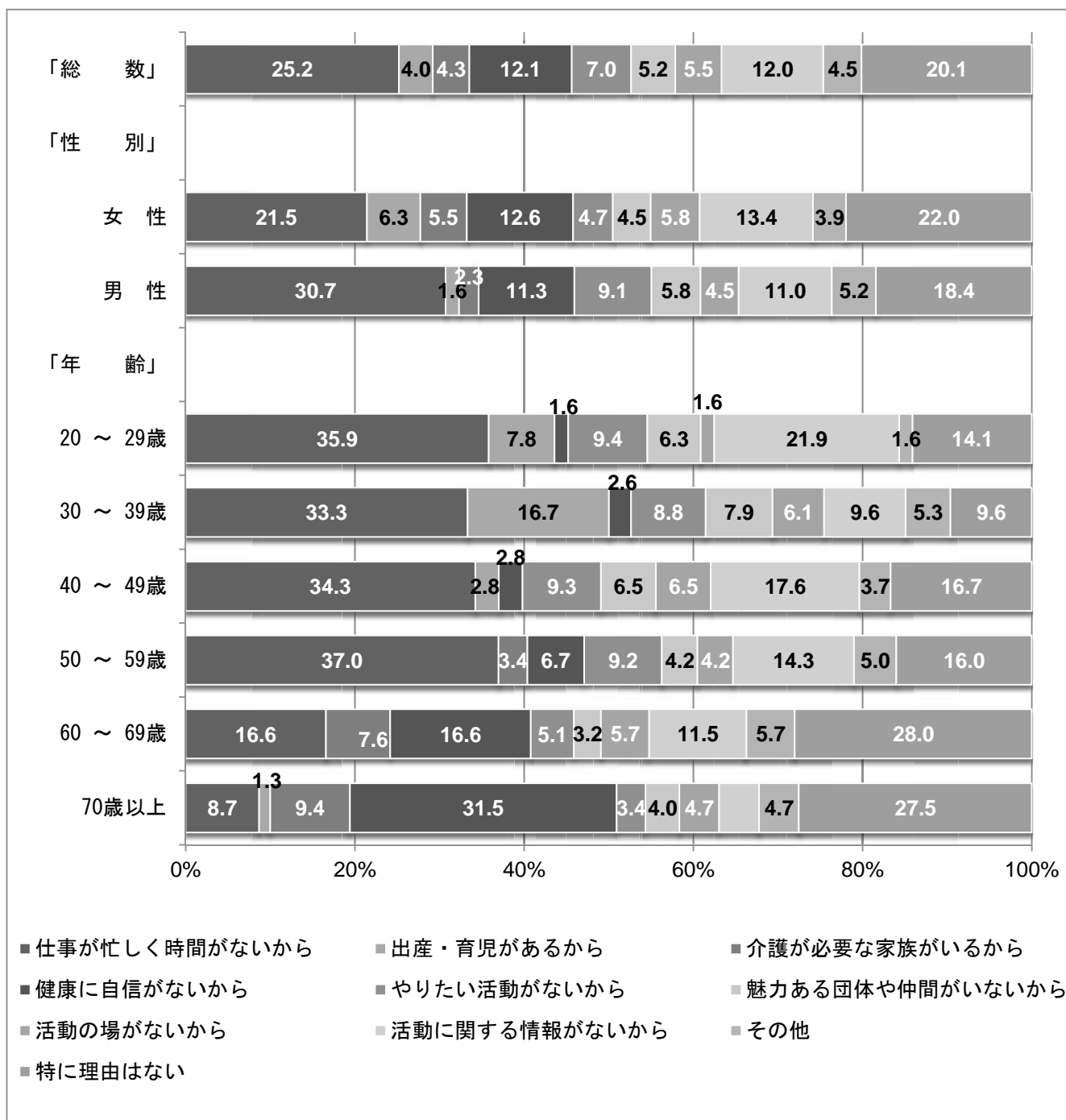
【全体】

地域活動の内容のうち、回答が多かったのは、自治会、町内会等の地域活動（47.2%）と、趣味やスポーツ等のグループ活動（29.9%）と、PTAや子ども会等の活動（17.5%）である。

一方で、特にない（地域活動に参加していない）人が、41.4%に昇ることから、地域活動への積極的な参加を促す取組を推進していく必要がある。

〔問9で「特になし」を選んだ方のみお答えください。〕

問10 あなたが、こうした地域活動に参加されていない理由は何ですか。当てはまるものを1つ選んでください。

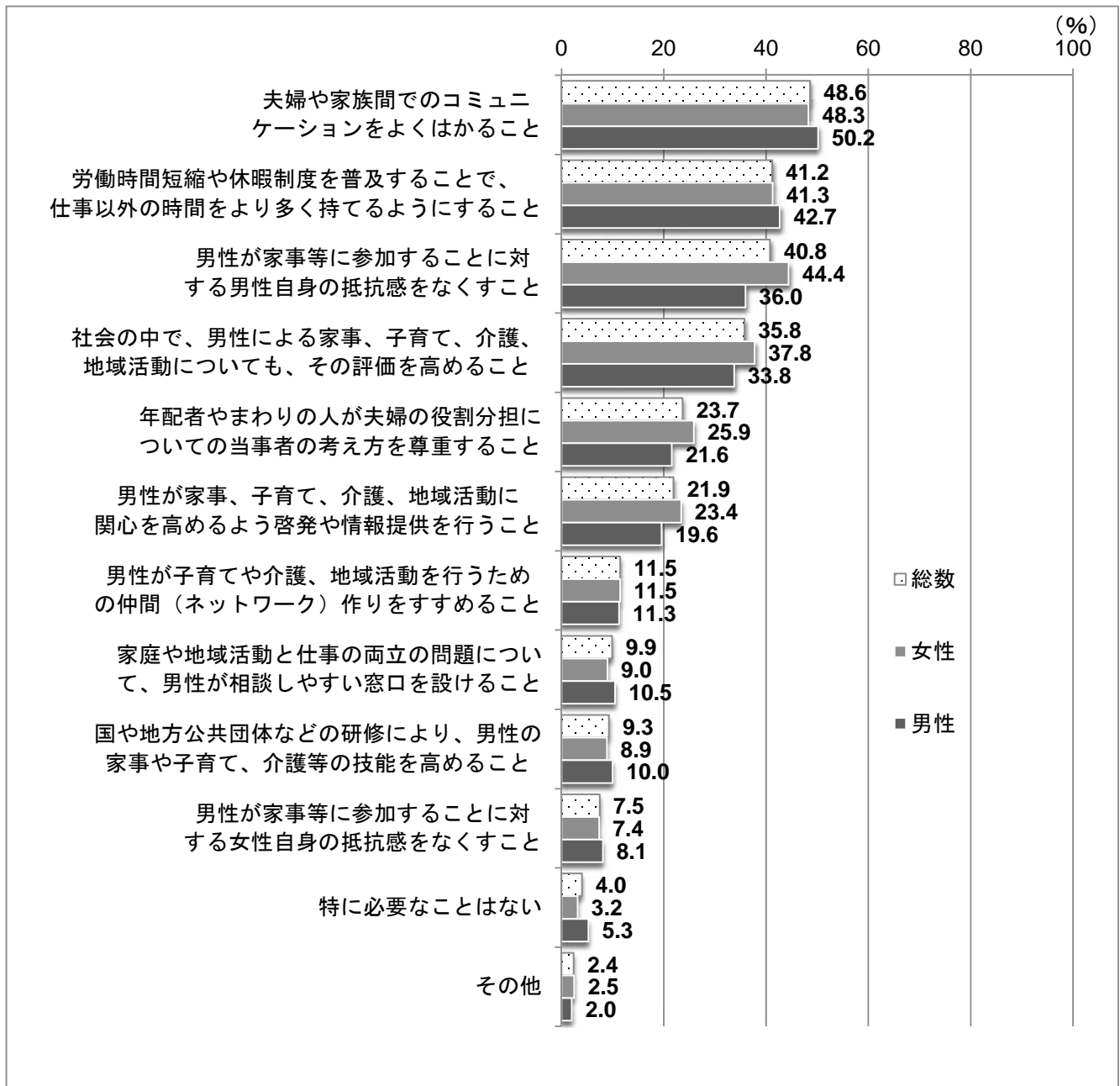


【全体】

地域活動をしていない理由について、回答が多かったのは、仕事が忙しく時間がない（25.2%）と、健康に自信がない（12.1%）である。

一方で、活動に関する情報がない（12.0%）、やりたい活動がない（7.0%）、活動の場がない（5.5%）、魅力ある団体や仲間がない（5.2%）といった理由もあることから、ワーク・ライフ・バランスの促進はもとより、情報提供を充実させる必要がある。

問 11 今後、男性が女性とともに地域活動を始め、家事、子育て、介護に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか？特に当てはまるものを3つまで選んでください。



○その他意見

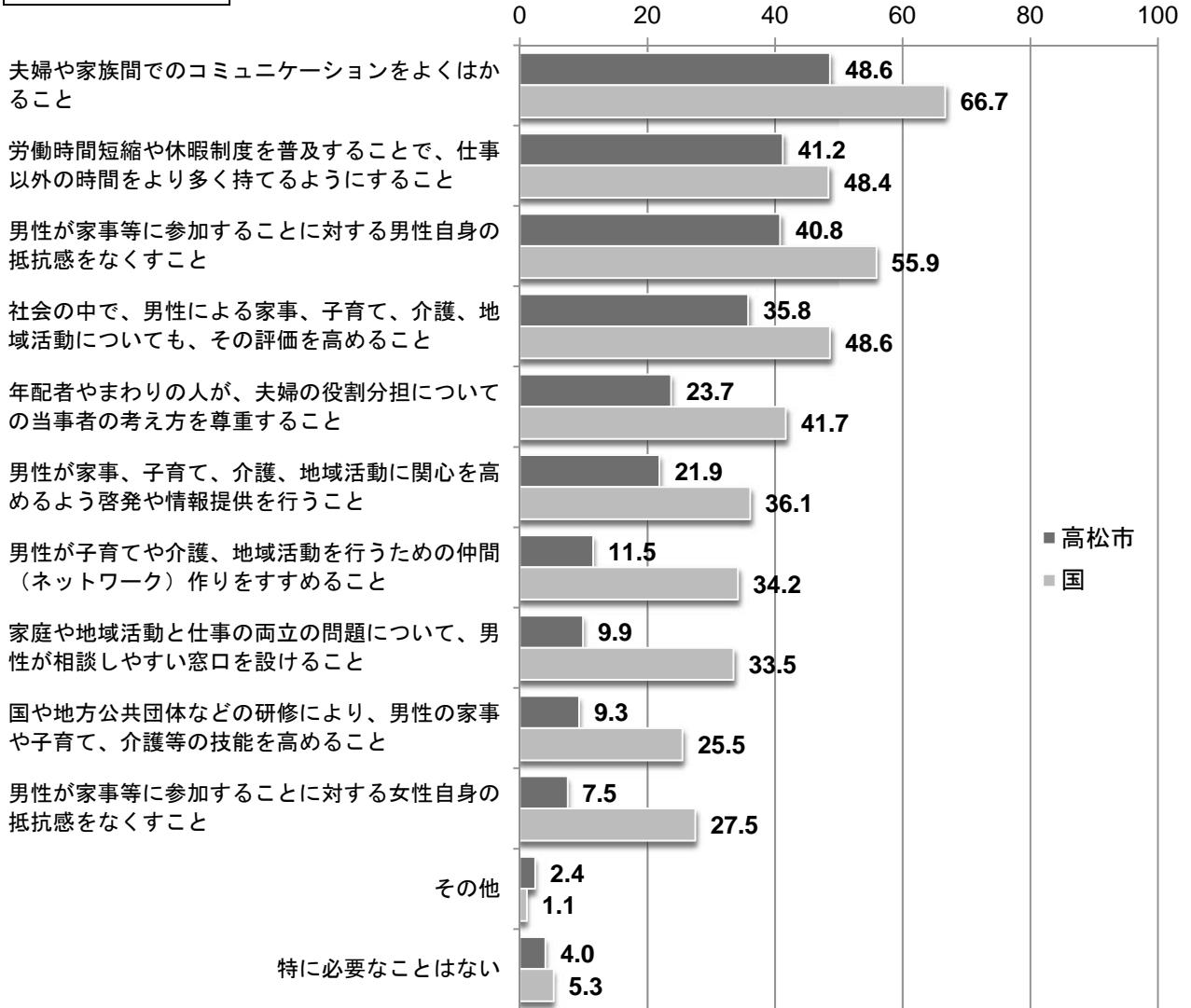
- 1 男性が家庭を守れるよう男性へのケア
- 2 一個人としてこれらの活動に当事者意識を持つこと
- 3 低所得者をなくすこと
- 4 夫婦と一緒に地域活動に参加すること
- 5 参加したくない人もいるはず
- 6 公務員ほど地域活動に参加すること
- 7 子供に対する教育環境の整備
- 8 高松市のやり方を変えること
- 9 女性の貧困をなくすこと

【全体】

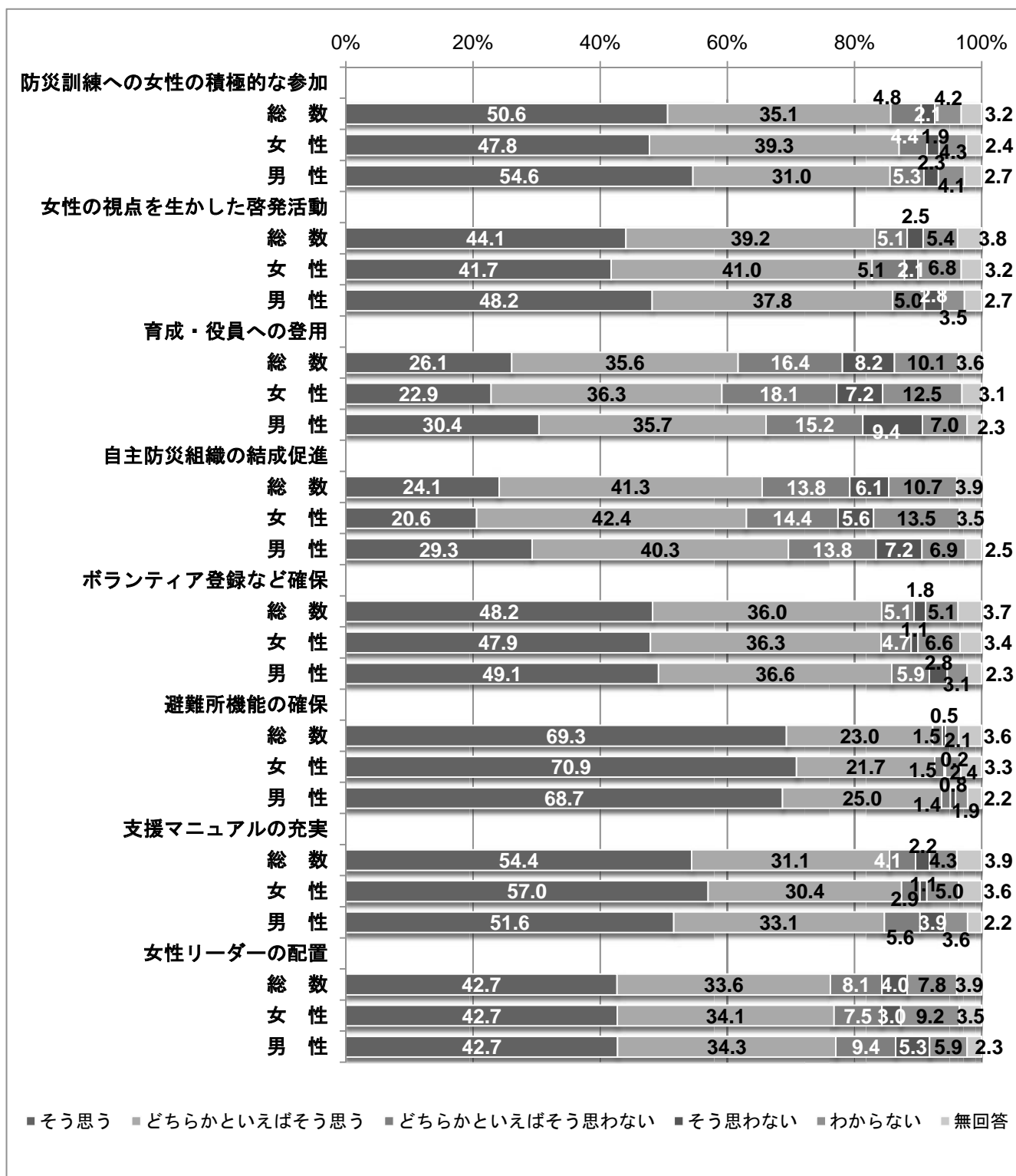
家事等に男性が参加するために必要なことについて、回答が多かったのは、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」で48.6%と最も高く、以下、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(41.2%)、「男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(40.8%)などの順となっている。男性が家庭や地域活動に参画し、生きがいを持って生活していくためには、夫婦間のコミュニケーションが重要であるとともに、男性自身の男性に関する固定的性別役割分担意識の解消が必要である。

(%)

国との比較



問 12 防災（災害復興も含む）活動に関して、男女が協力して活動していくためには、どのような事が必要と考えますか。次のそれぞれについてあてはまる数字を選んでください。

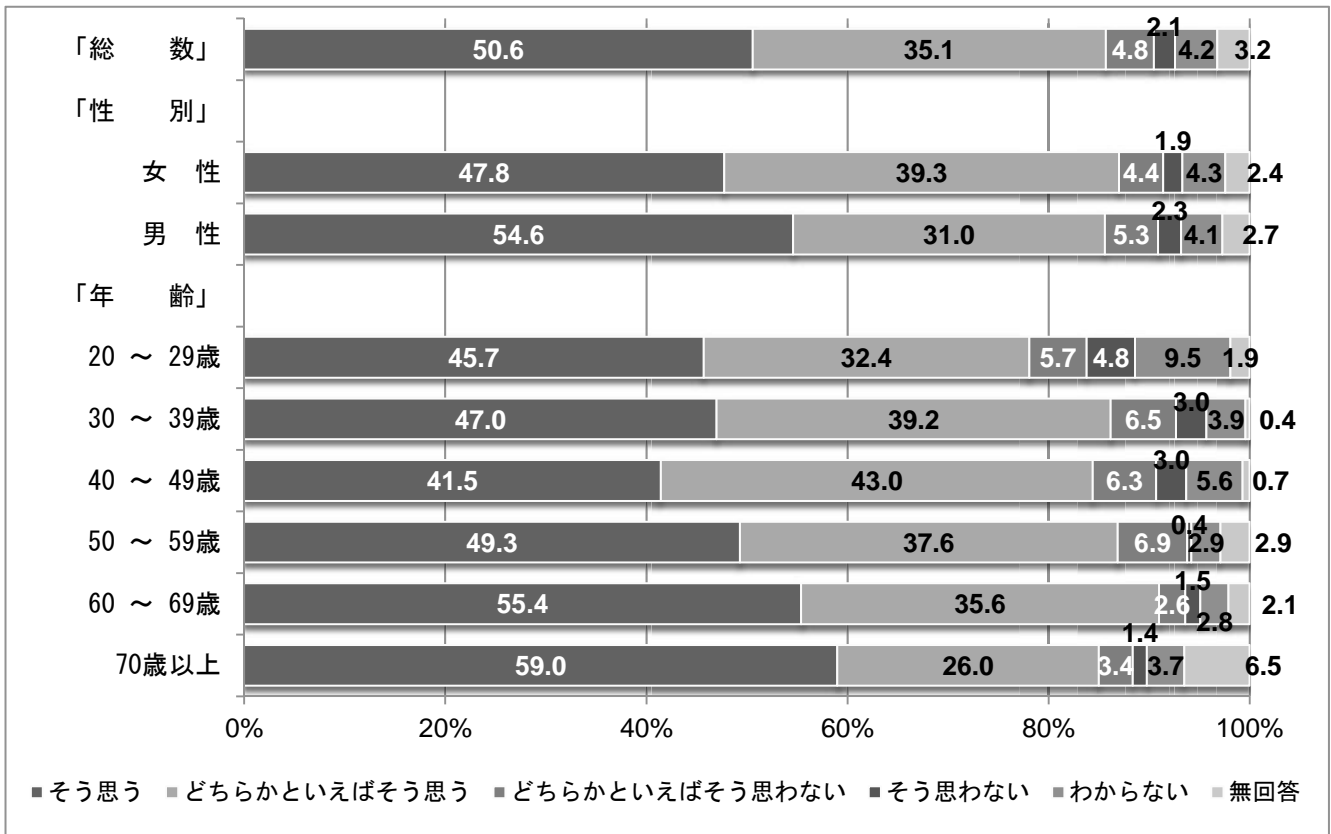


【全体】

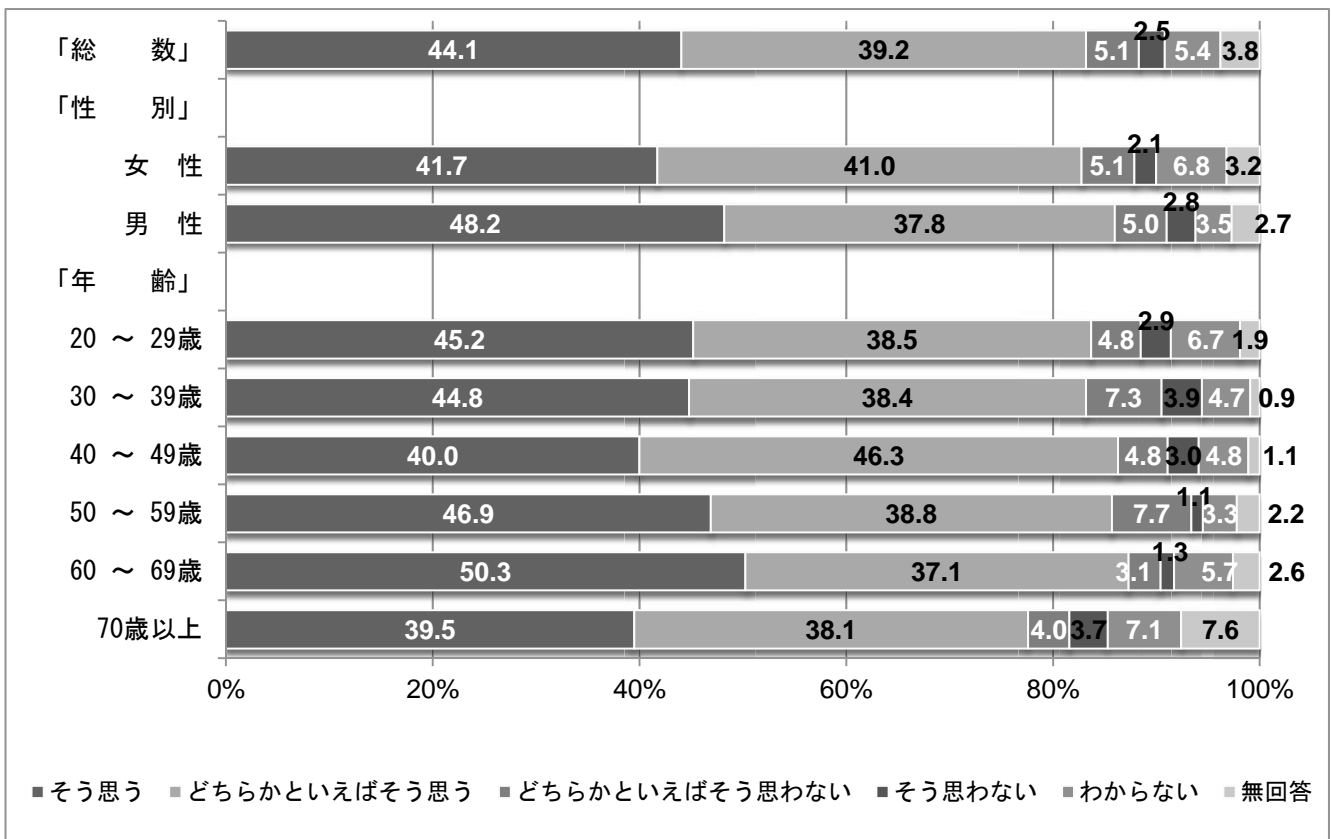
防災（災害復興も含む）活動に関して、男女が協力して活動していくために必要なことについて、賛成（そう思う、どちらかといえばそう思う）の回答が多かったのは、「女性や乳幼児等に配慮した避難所機能の確保」（92.3%）、「防災訓練への女性の積極的な参加」（85.7%）、「男女別のニーズに配慮した避難所などでの支援マニュアルの充実」（85.5%）の順になっている。

男女共同参画の視点による防災対策が必要であり、そのノウハウの充実や女性リーダーの配置が重要である。

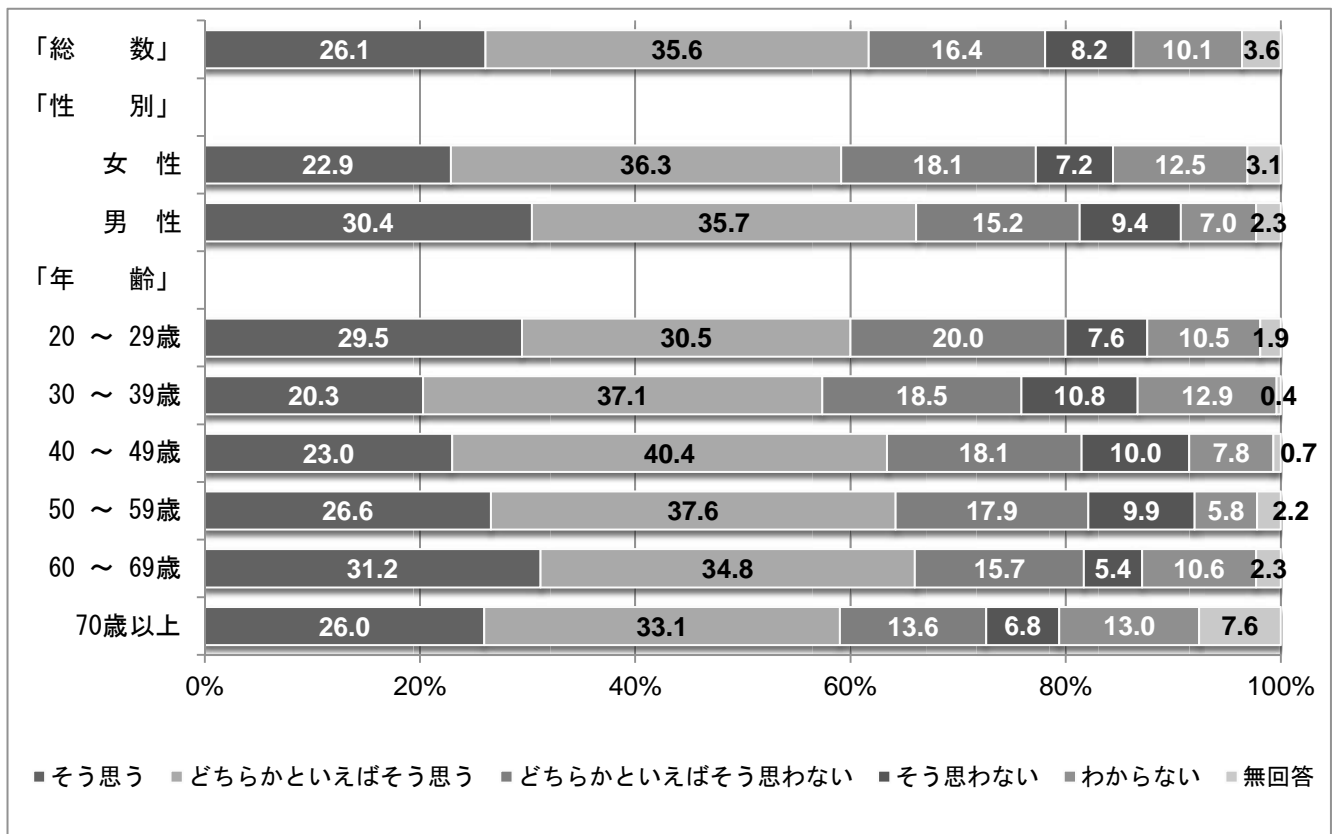
(1) 防災訓練への女性の積極的な参加



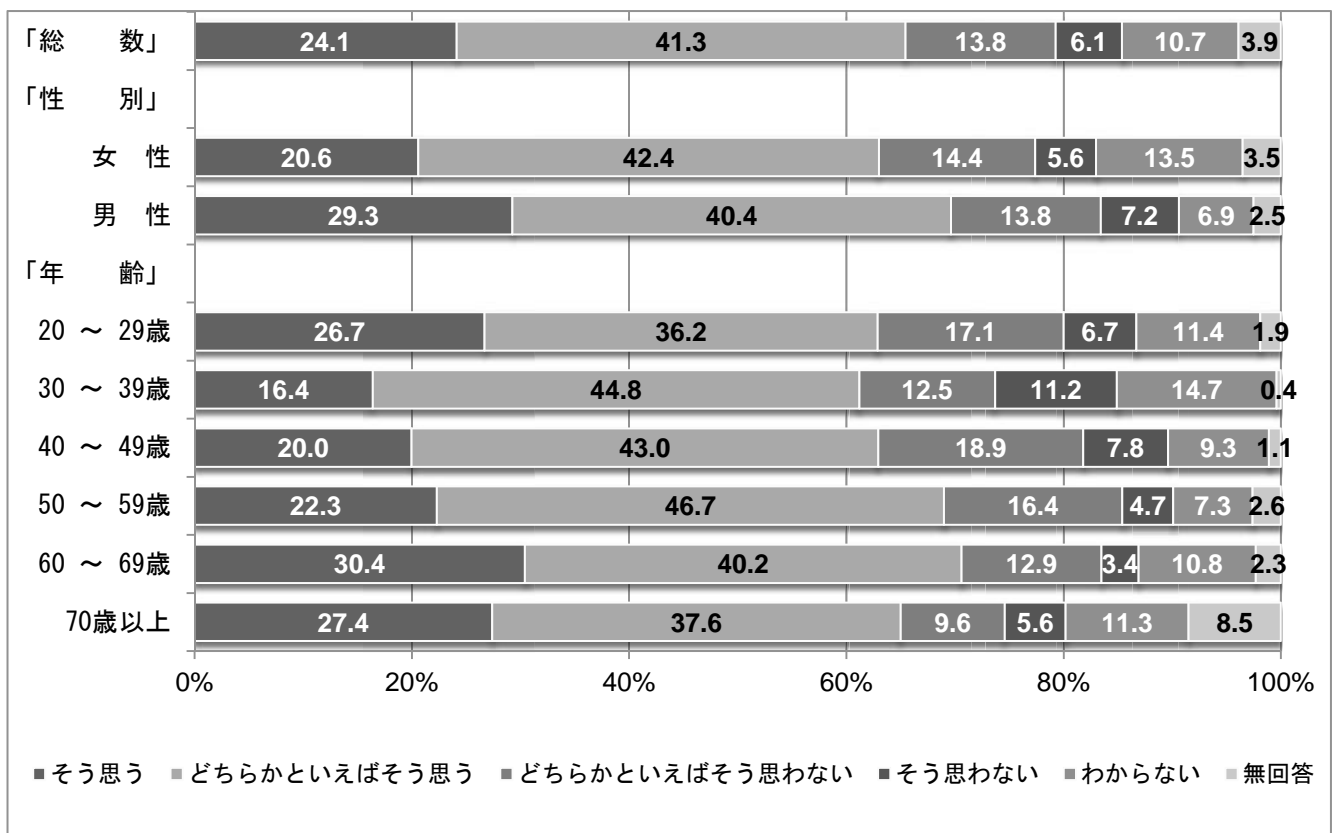
(2) 防災訓練などで女性の視点を生かした啓発活動



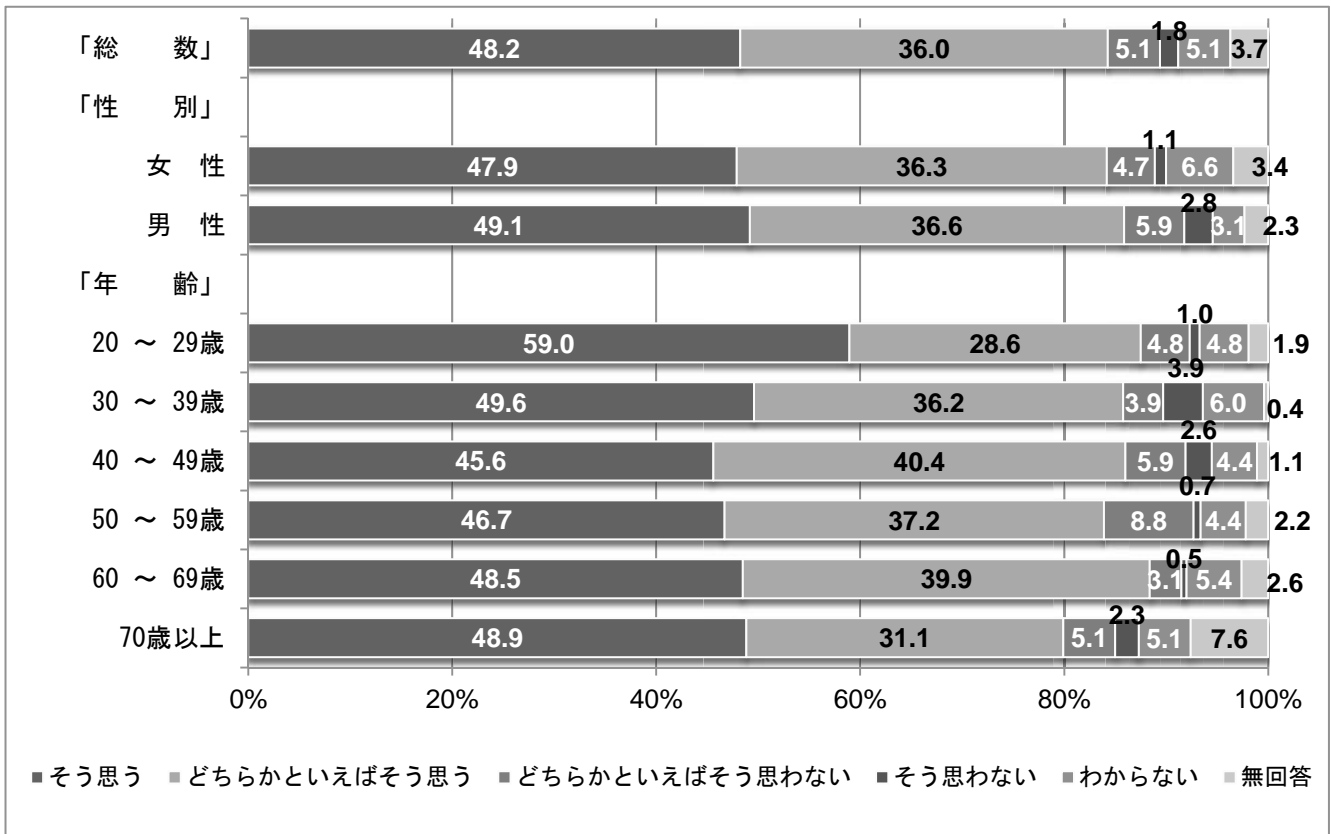
(3) 女性消防職員や女性消防団員の育成、役員への登用



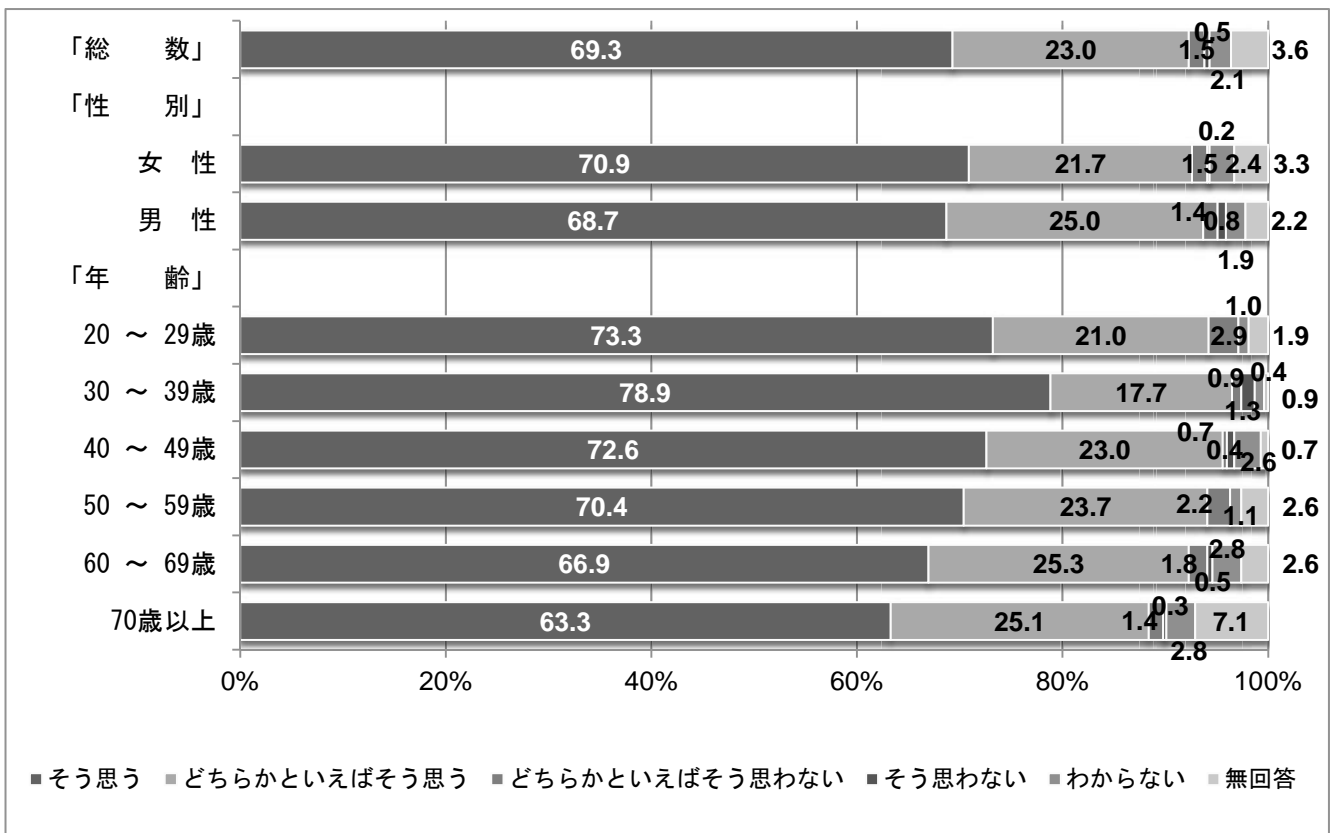
(4) 女性が積極的に参加する自主防災組織の結成促進



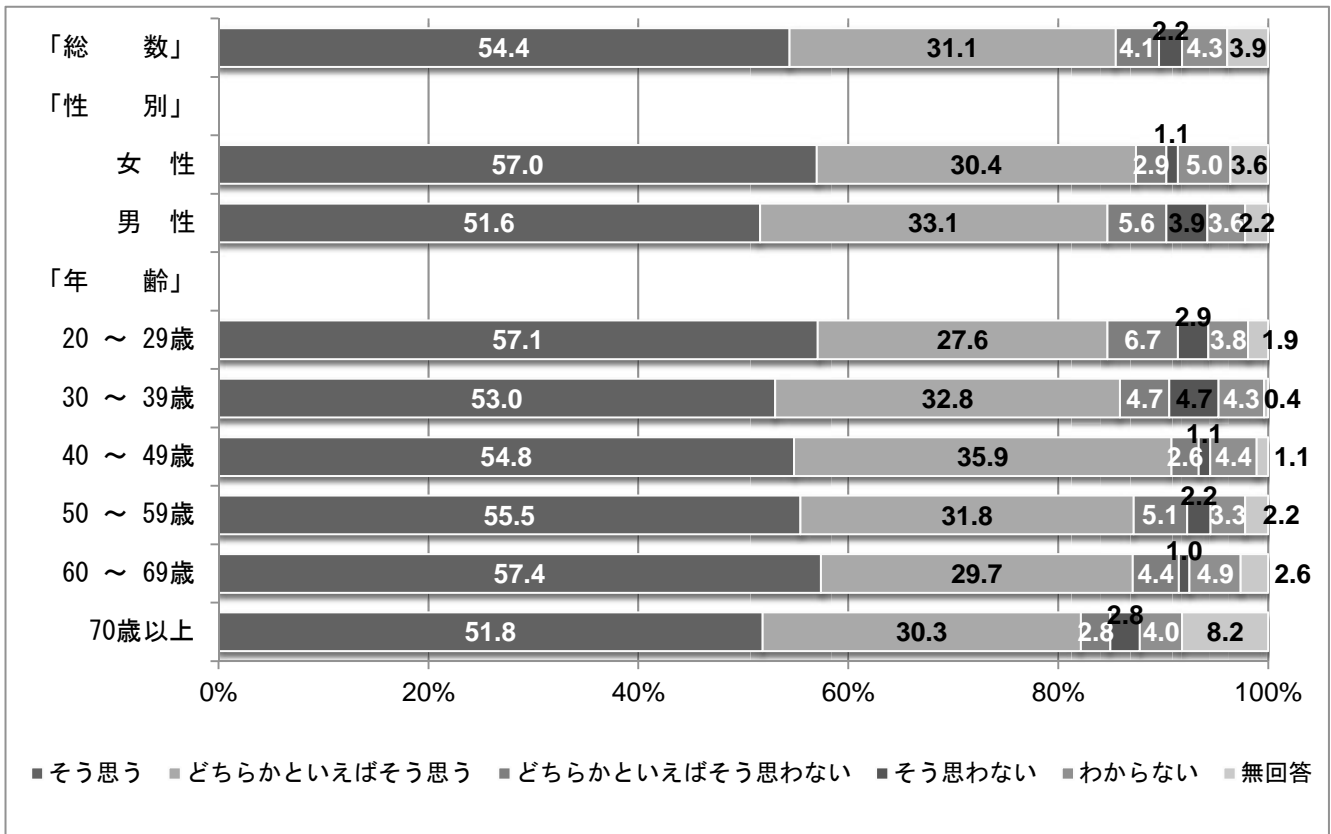
(5) 災害時ボランティア登録など多様な人材の確保



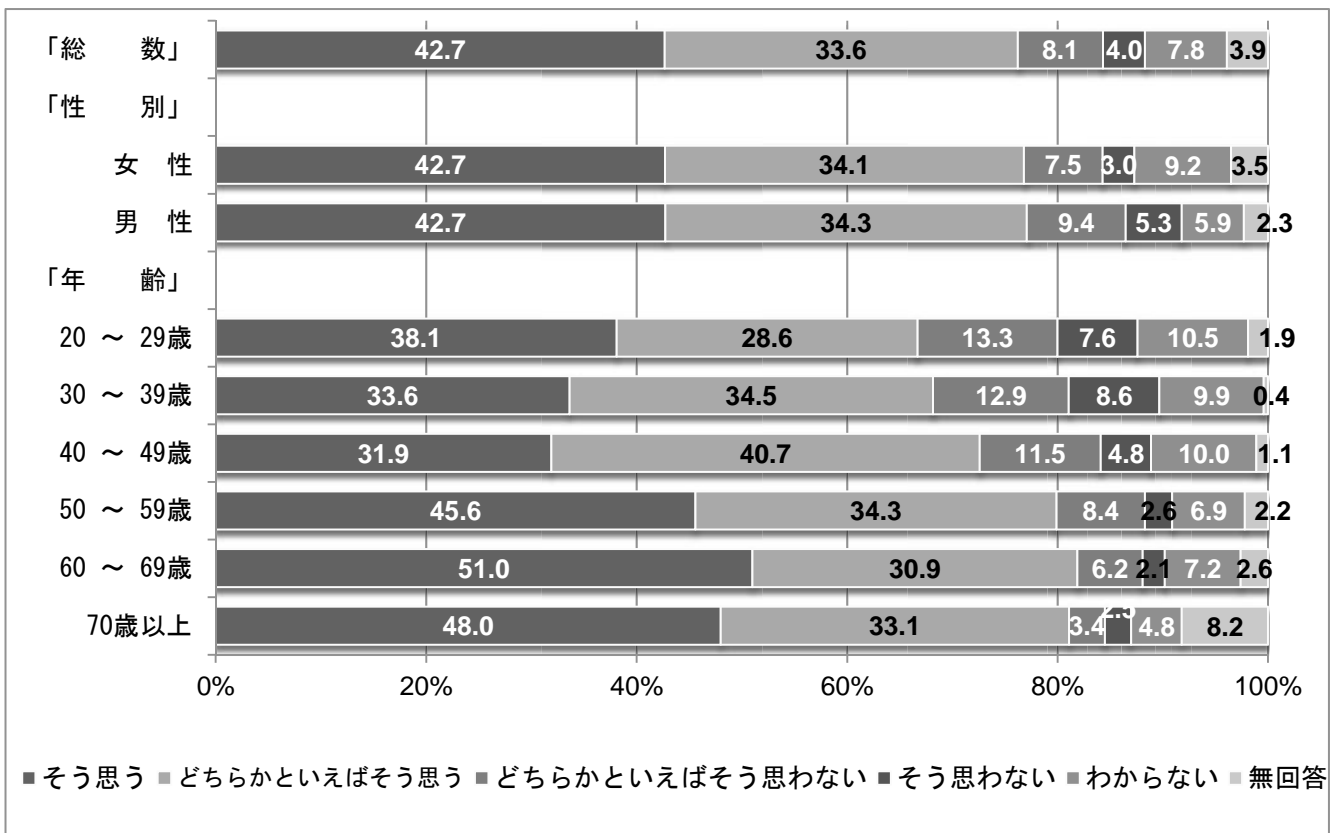
(6) 女性や乳幼児等に配慮した避難所機能の確保



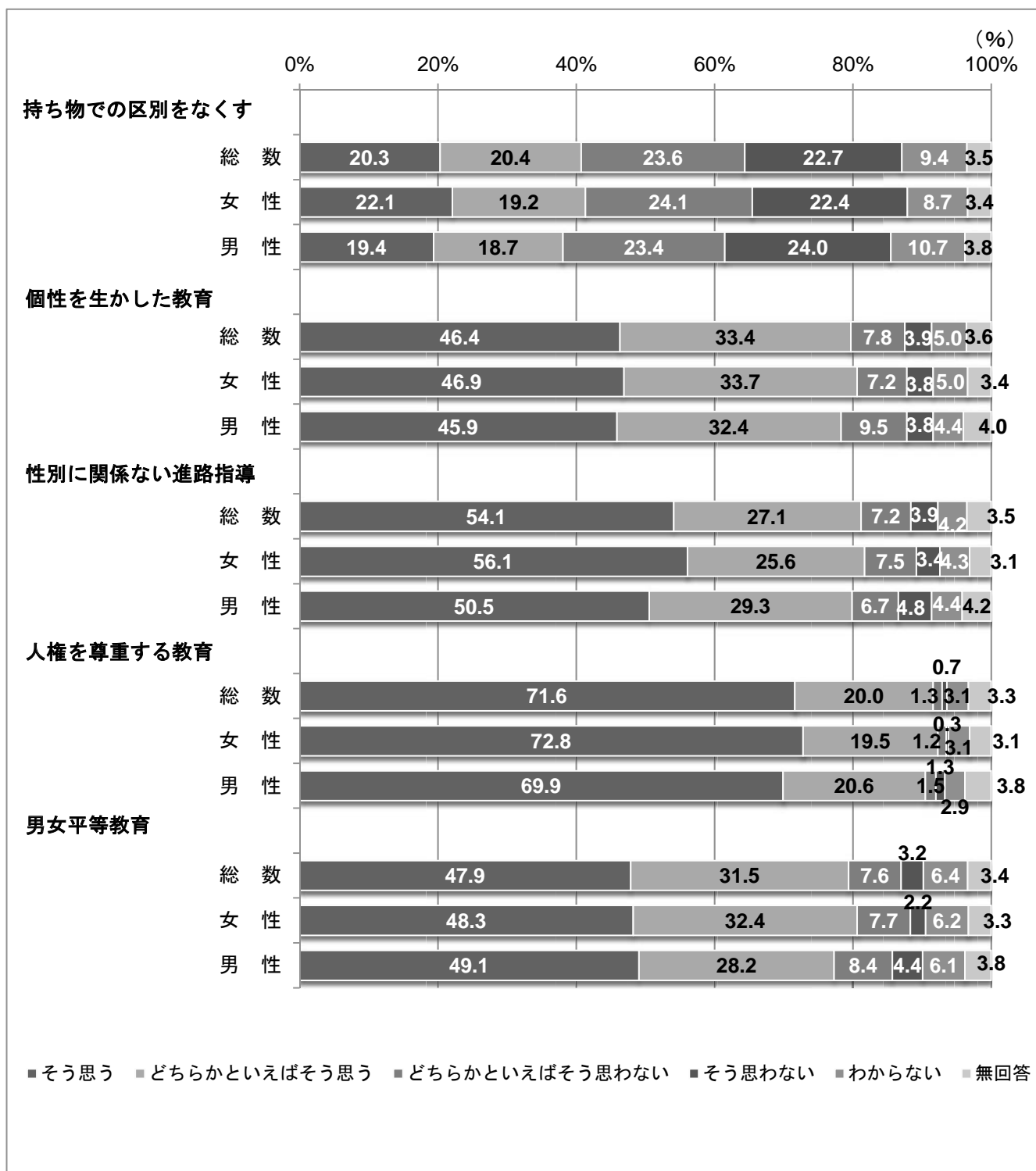
(7) 男女別のニーズに配慮した避難所などでの支援マニュアルの充実



(8) 避難所運営の際の女性リーダーの配置



問 13 あなたは、学校での教育について、どのように思いますか。次のそれぞれについて当てはまる数字を選んでください。

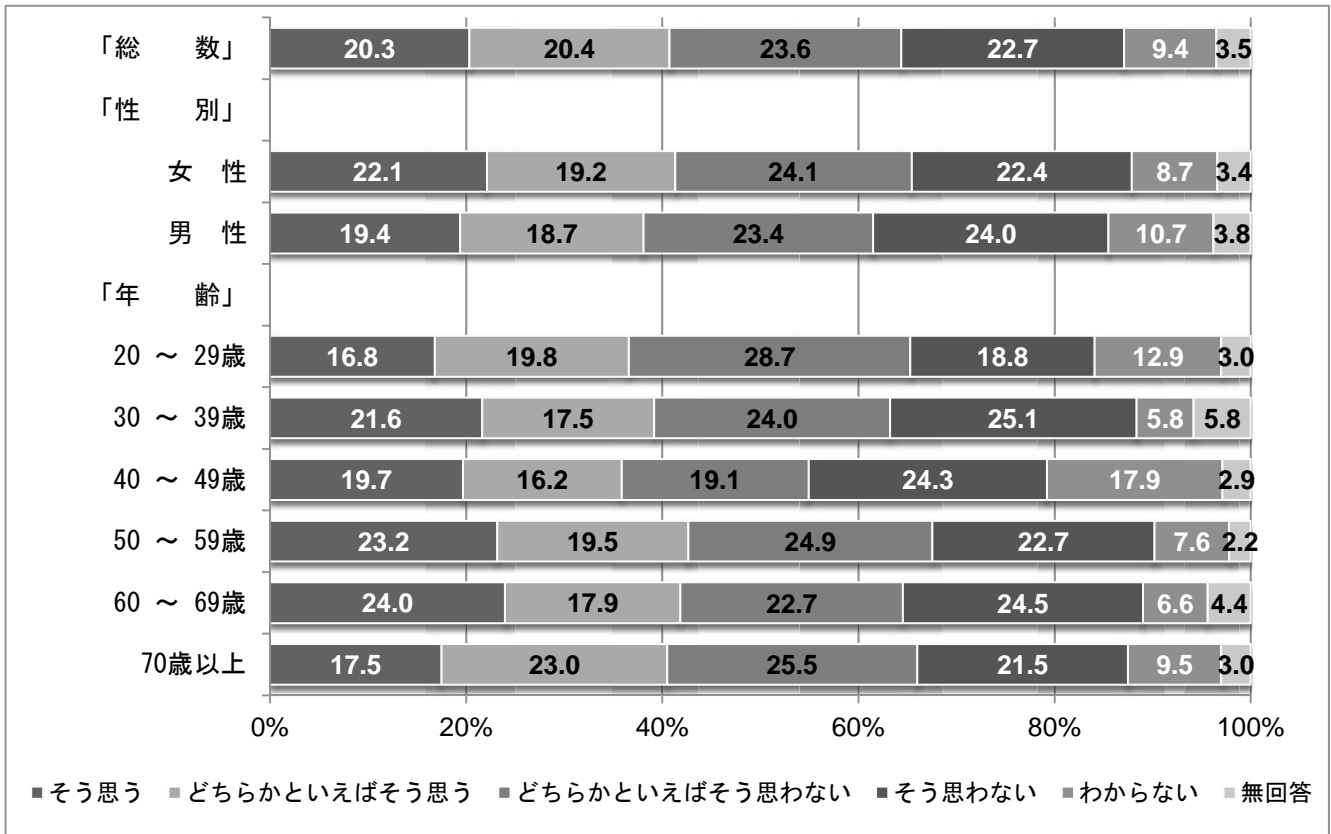


【全体】

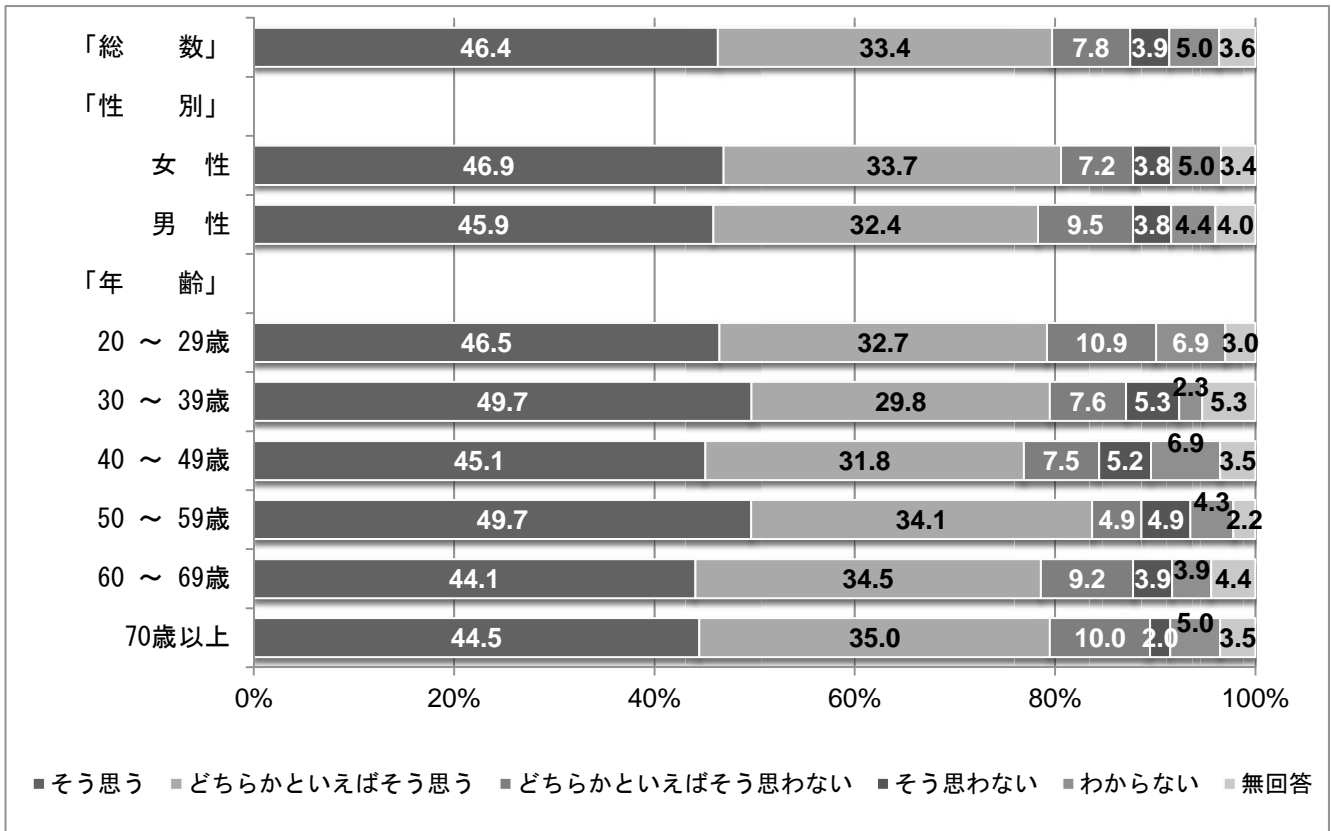
学校での教育について、男女共同参画の観点から、どのように思うかを聞いたところ、「男女がお互いの人権を尊重する適切な教育が行われるほうがよい」が91.6%で最も高く、以下、「進路指導は、性別に関わらず同じように行われる方がよいと思う」とする者が81.2%、「性別に関わらず個性を生かした教育が行われる方がよいと思う」とする者が79.8%、となっている。

一方、「名簿、持ち物などでの男女の区別をなくした方がよい」と答えた者は、前回調査より6.6ポイント増加（34.1%→40.7%）したものの、約4割にとどまっている。

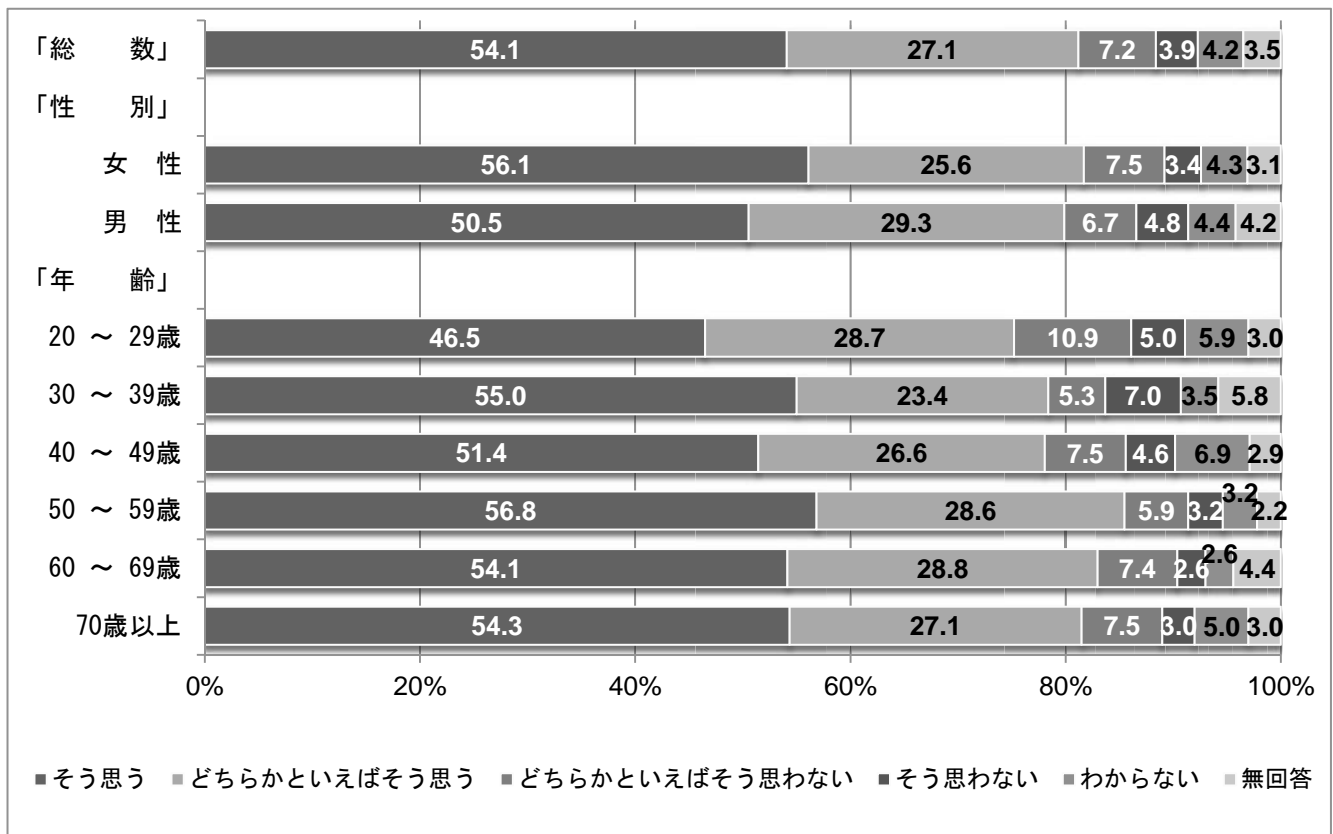
(1) 名簿、持ち物などでの男女の区別をなくした方がよい



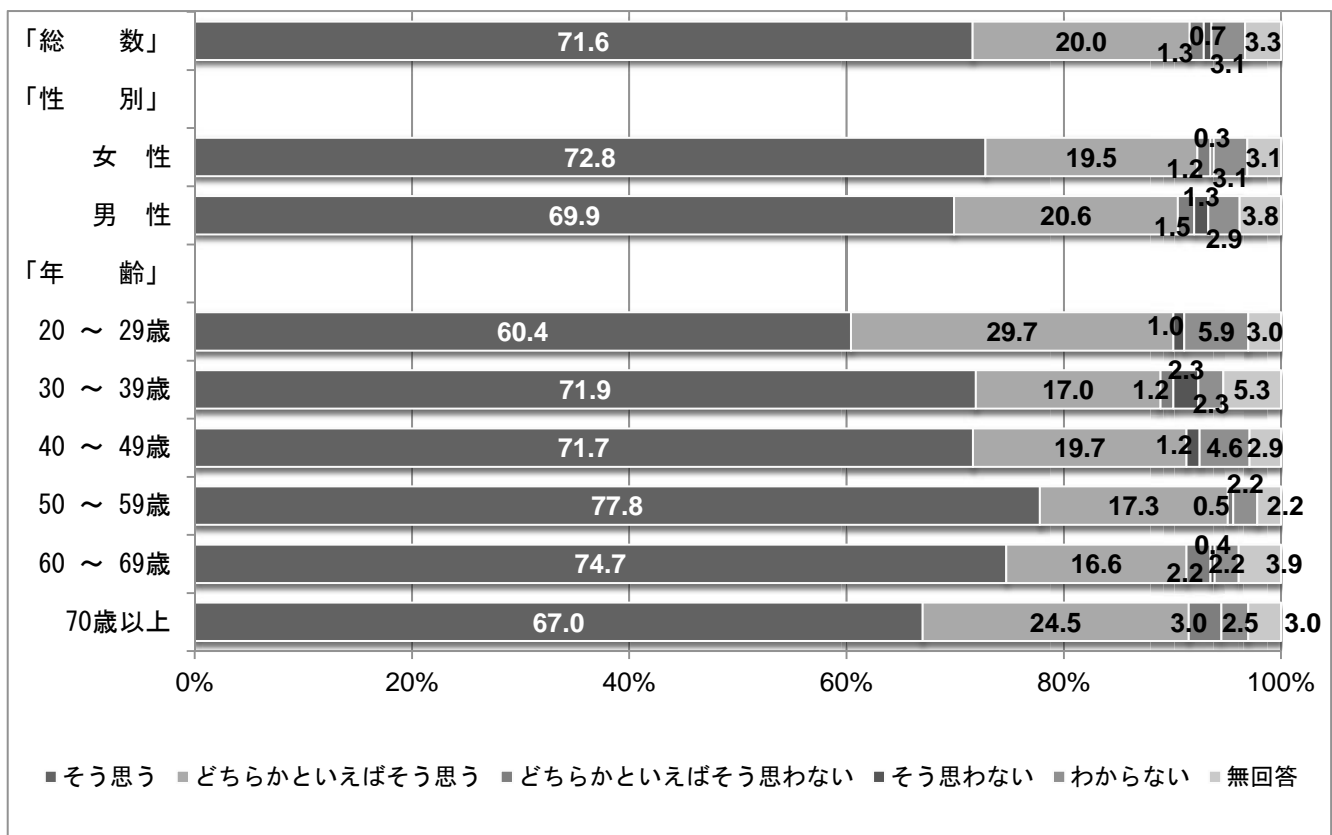
(2) 性別にかかわらず個性を生かした教育が行われるほうがよい



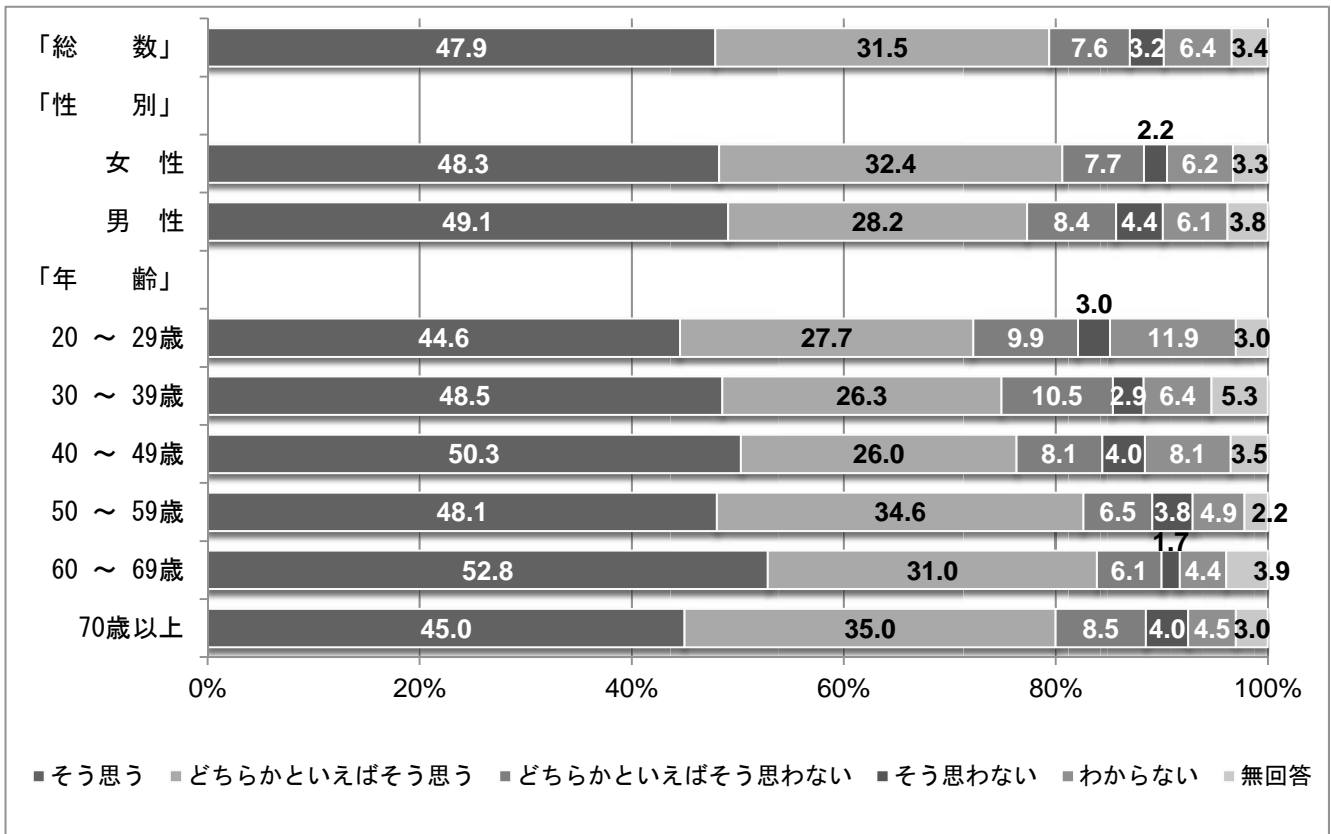
(3) 進路指導などは、性別にかかわらず同じように行われるほうがよい



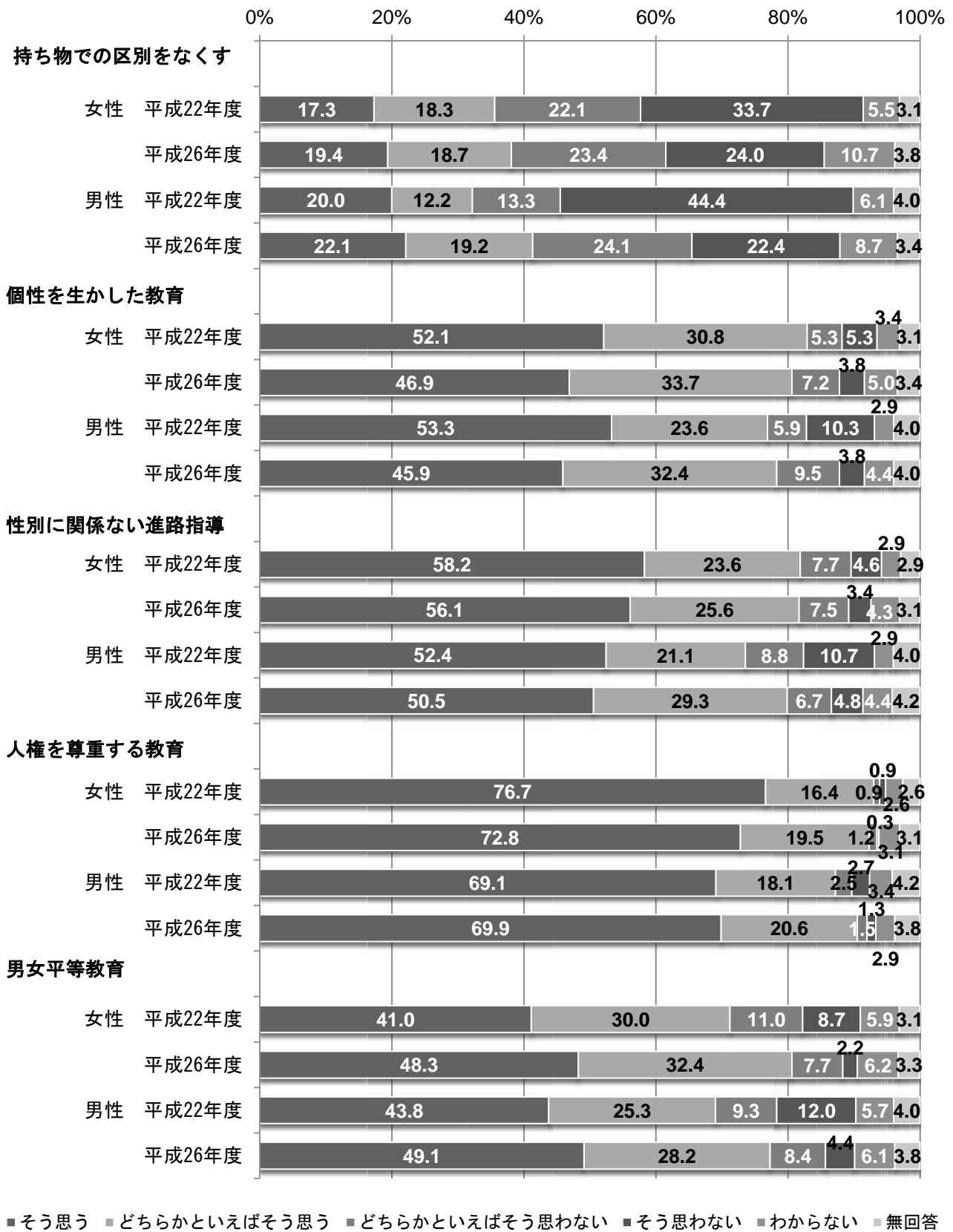
(4) 男女がお互いの人権を尊重する適切な教育が行われるほうがよい



(5) 積極的に男女平等教育を進めた方がよい

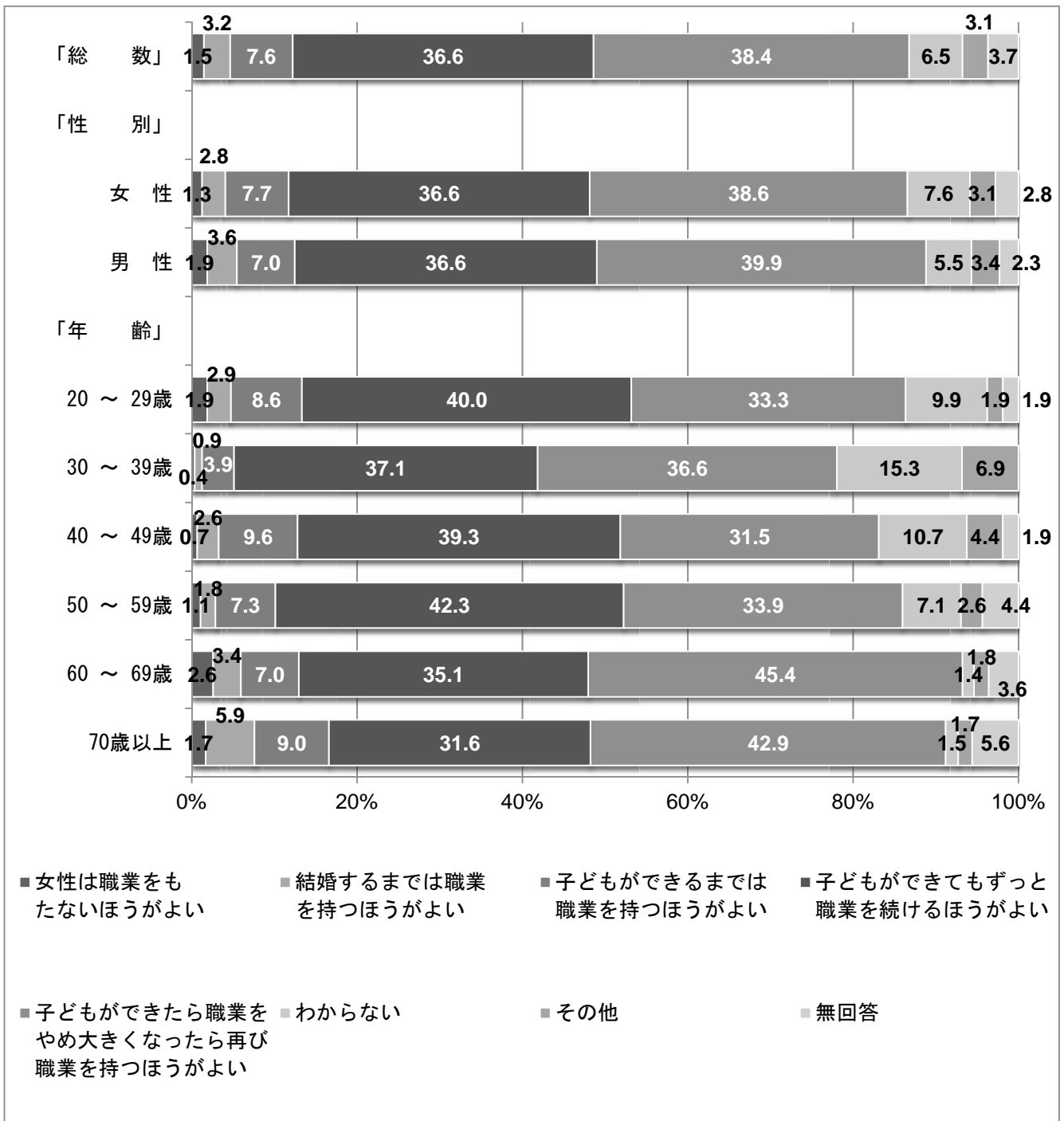


前回調査（平成22年度）との比較



就労について

問 14 あなたは、一般的に女性が職業を持つことについて、どう思いますか。当てはまるものを1つ選んでください。



○その他意見

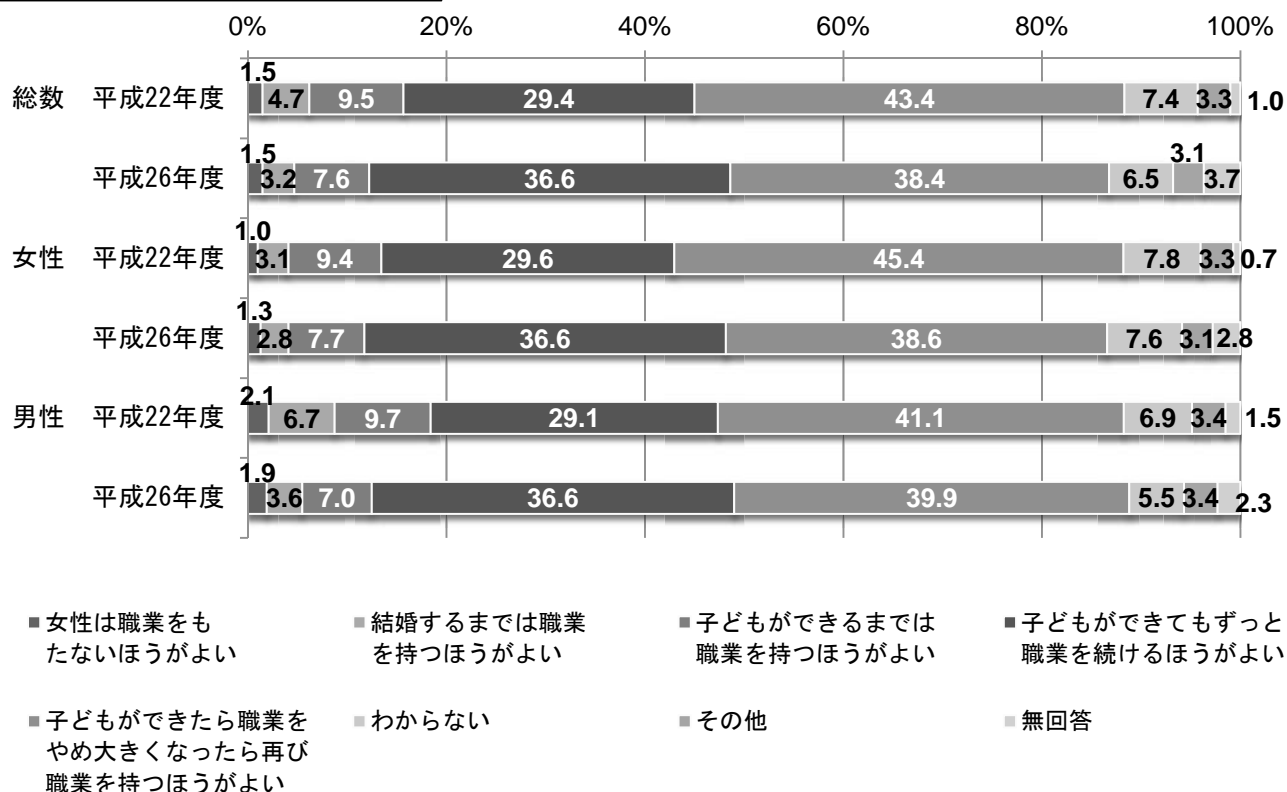
- 1 状況に応じて、できるだけ職業を続けるほうがよい。
- 2 それぞれ環境が違うので一般的と決められない
- 3 生活のために働くのではなく、専門性を持った仕事であれば続けてもよいが、子育てを早い段階で人任せにしてまで働かなければいけないのか、疑問である。母親の変わりはないのでは？
- 4 職業を持つことは良いことだと思うが、状況に応じてだと思う。
- 5 「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が望ましいが、経済的なゆとりがあれば、子育てに専念し、職業をもたなくてもよい。
- 6 基本的に「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」であるが、経済的な問題ありの場合、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」
- 7 子供ができて職業を続ける方がよいとは思わないが、生活のために働かざるを得ない。女性が職業を持っても両立は可能だと思う。
- 8 設問の考え方に限定できないと思う。個人の経済的環境で決めればよいと思う。
- 9 生活環境によって異なると思います
- 10 女性が職業を持つ？そうすると男性が職業を持つも有りなのでは？
- 11 その家庭の状況による
- 12 個人の自由だと思う
- 13 女性ということでひとくくりにして考えることはできない
- 14 一人の人間として職業を持つべきであり、家事も一つの職業だと思います。
- 15 結婚してもしなくても、子供がいてもいなくても、ずっと職業をもてばいい。何も犠牲にすることははない。
- 16 持つ、持たないは本人の考え方次第だが、持てる環境づくりは必要だと思うが実際にはそうならない。
- 17 子供を安心して預けられる人や場所があれば仕事は続けた方がよい
- 18 個人の力量や仕事内容により、好きな道を選んだという自己責任がある。だから、選択肢のどれでもかまわない。
- 19 子どもの心のケアを出来る位の親の余裕があるような仕事なら、子供ができて職業を続ける
- 20 その人のライフスタイルの問題である
- 21 家族構成等の状況により異なる
- 22 本人の希望がかなえられる勤め方がよい
- 23 一人一人の事情は千差万別。自身の希望に叶うことが大切だと思います
- 24 女性の希望を尊重すべき
- 25 個人それぞれの考え方を尊重すべき
- 26 仕事をしていても、いなくても結婚したら仕事よりも夫の希望を出来る限り聞いて続けるかやめるか決めるべきだと思う。（又は新たに始めるか）
- 27 家庭の状況を夫婦で話し合っただけで決めればよい
- 28 授乳中は休職し卒乳した頃から再就職の方がよい
- 29 夫が育児に専念できるのであれば妻が働けばよい
- 30 続けられるような環境であること
- 31 家庭の事情に応じた就労でいい
- 32 職業を続ける意思があるなら続けるべき

【全体】

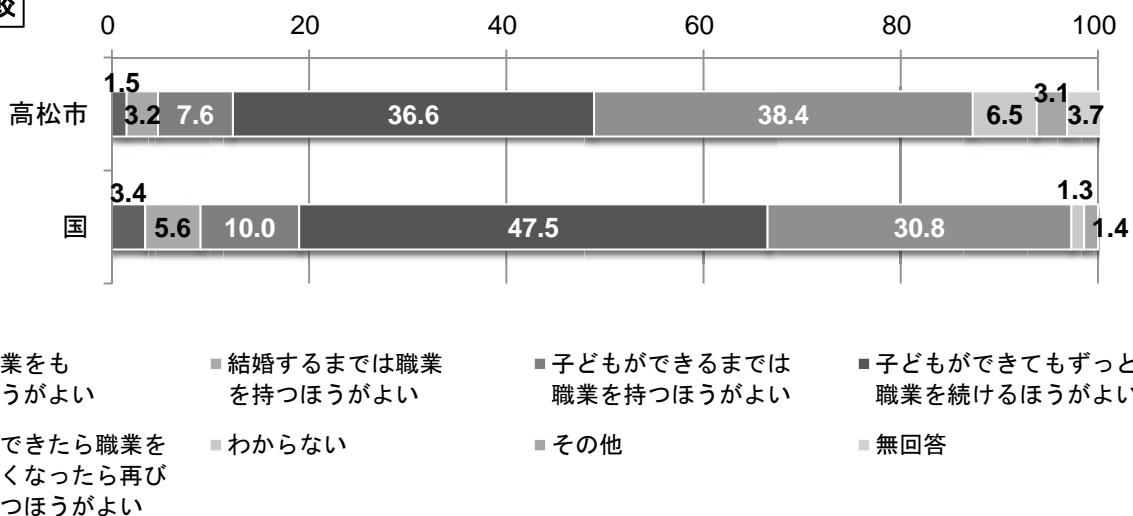
女性が職業を持つことについて、「女性は職業をもたない方がよい」と答えた者が1.5%、「結婚するまでは職業をもつ方がよい」と答えた者が3.2%、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」と答えた者が7.6%、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた者が36.6%、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた者が38.4%となっている。

前回の調査結果と比較して見ると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」とする者の割合が7.2ポイント（29.4%→36.6%）上昇し、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた者の割合が低下（43.4%→38.4%）している。

前回調査（平成22年度との比較）

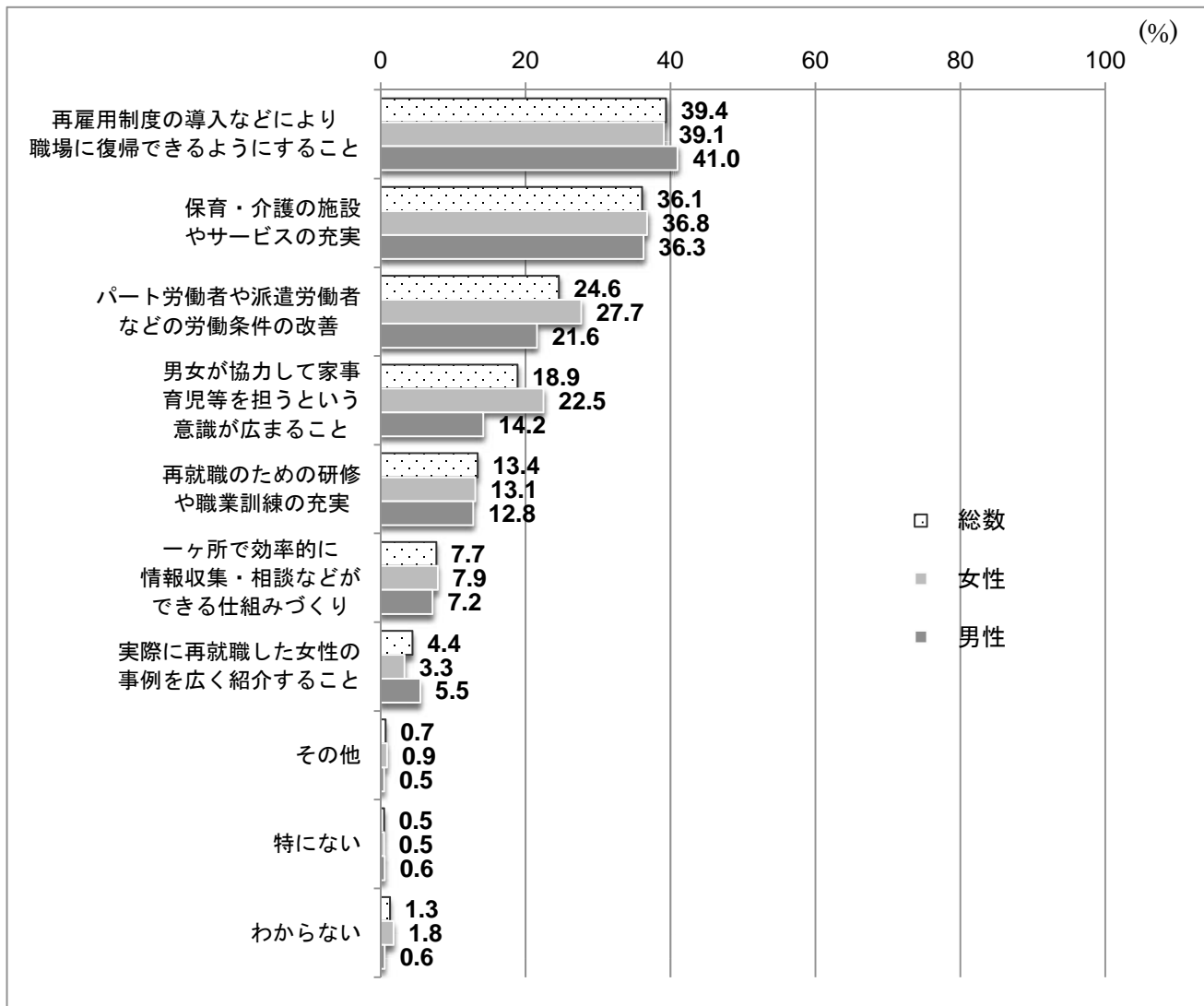


国との比較



(問 14 で「1 女性は職業を持たない方がよい」以外を選んだ方のみお答えください。)

問 15 出産・育児・介護などのため仕事をいったん辞めてから再就職を希望する女性が、再就職しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に当てはまるものを3つまで選んでください。



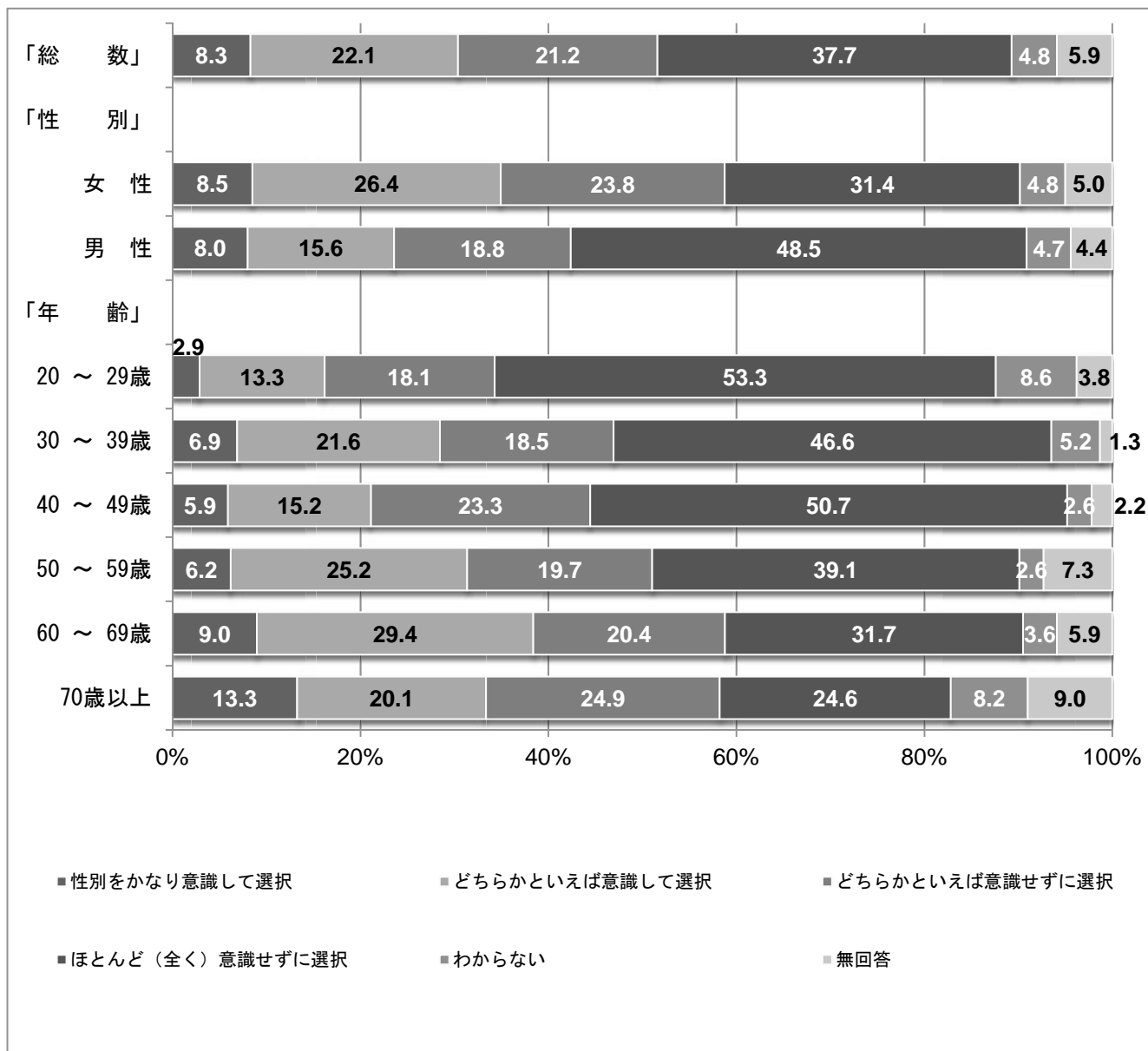
○その他意見

- 1 企業側の再就職を応援する仕組み、雇用の際の抵抗感の払拭、雇用環境（フレックスや時短勤務の拡充）の改善
- 2 自分の現状に合うものを選ぶ
- 3 産休・育休を必ず取れる職場を増やす事
- 4 ワークシェアリング
- 5 一旦やめてもいい会社作りをしたらいい

【全体】

女性の再就職支援に関して、回答が多かったのは、「再雇用制度の導入などにより職場に復帰できるようにする」(39.4%)、「保育・介護の施設やサービスの充実」(36.1%)「パート労働者や派遣労働者などの労働条件の改善」(24.6%)などの順となっている。

問 16 あなたは、進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。この中から1つだけお答えください。



【全体】

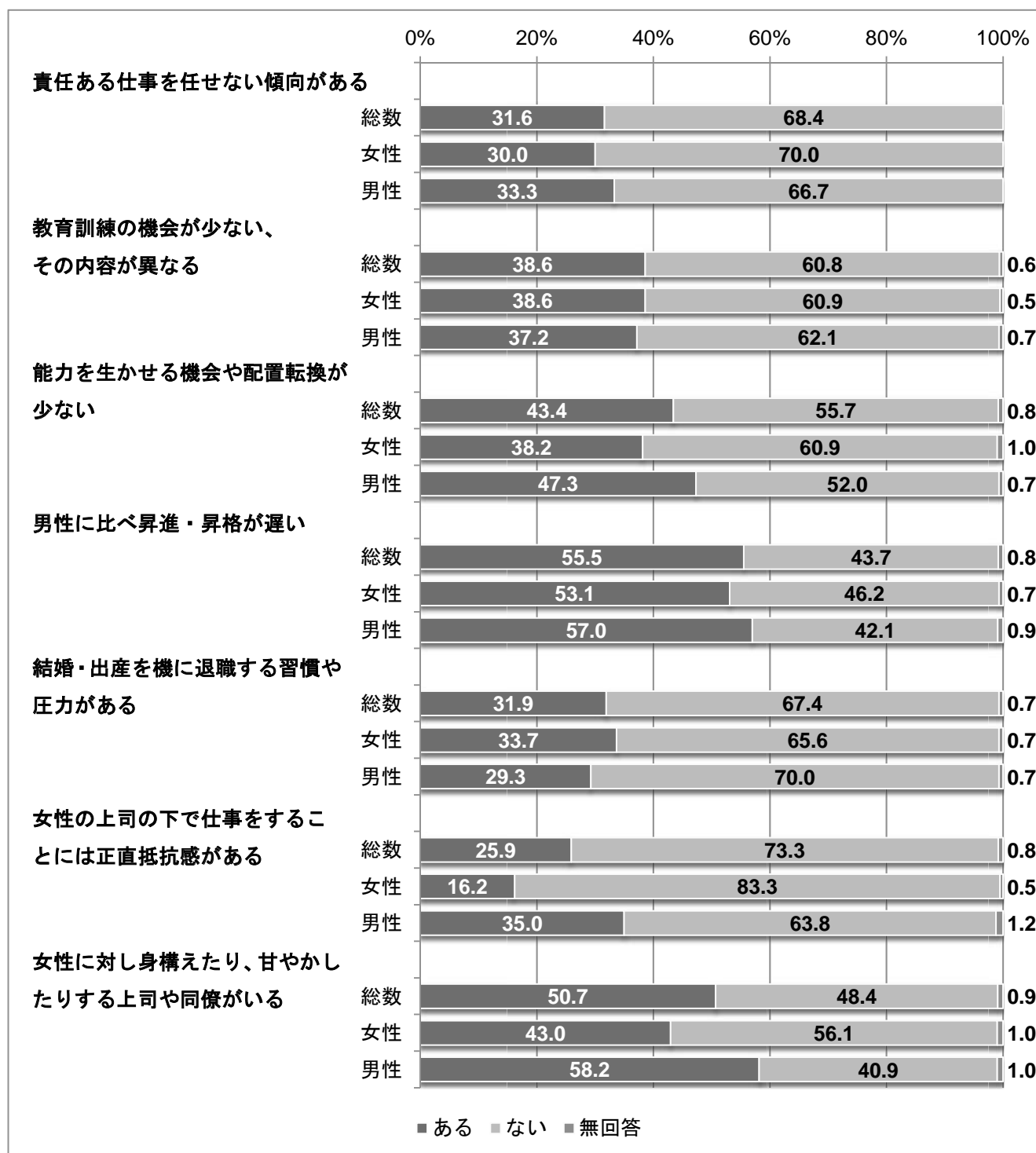
進路や職業を選択する際に、性別を意識したか聞いたところ、「性別を意識して選択した」とする者の割合が30.4%、「性別を意識せずに選択した」とする者の割合が58.9%となっている。

性別に見ると、「性別を意識して選択した」とする者の割合は女性で、「性別を意識せずに選択した」とする者の割合は男性で、それぞれ高くなっている。

年齢別に見ると、「性別を意識して選択した」とする者の割合は60歳以上で、「性別を意識せずに選択した」とする者の割合は20歳代と40歳代で、それぞれ高くなっている。

〔現在、お勤めの方にお伺いします〕

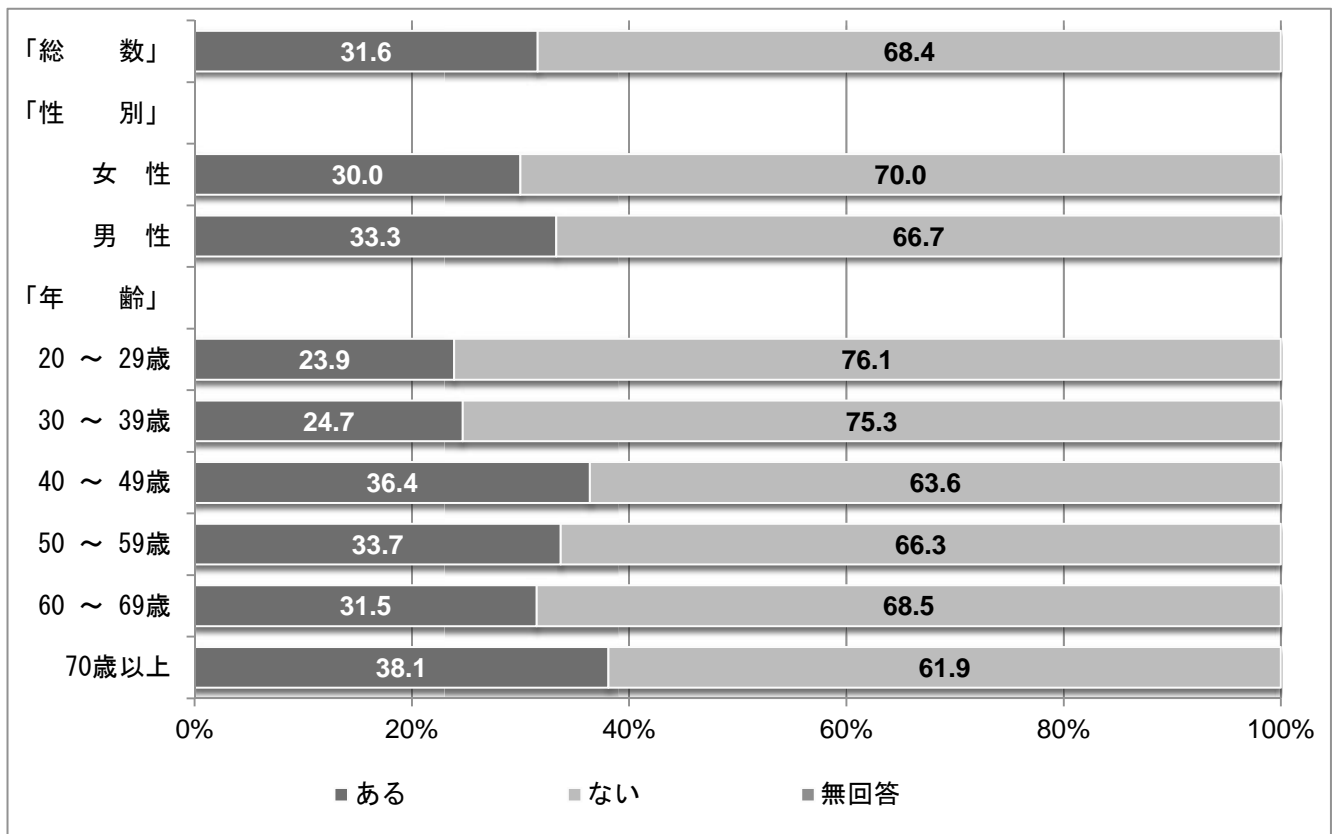
問 17 あなたの職場の中で、女性について、次のように感じることはありますか。次のそれぞれについて当てはまる数字を選んでください。



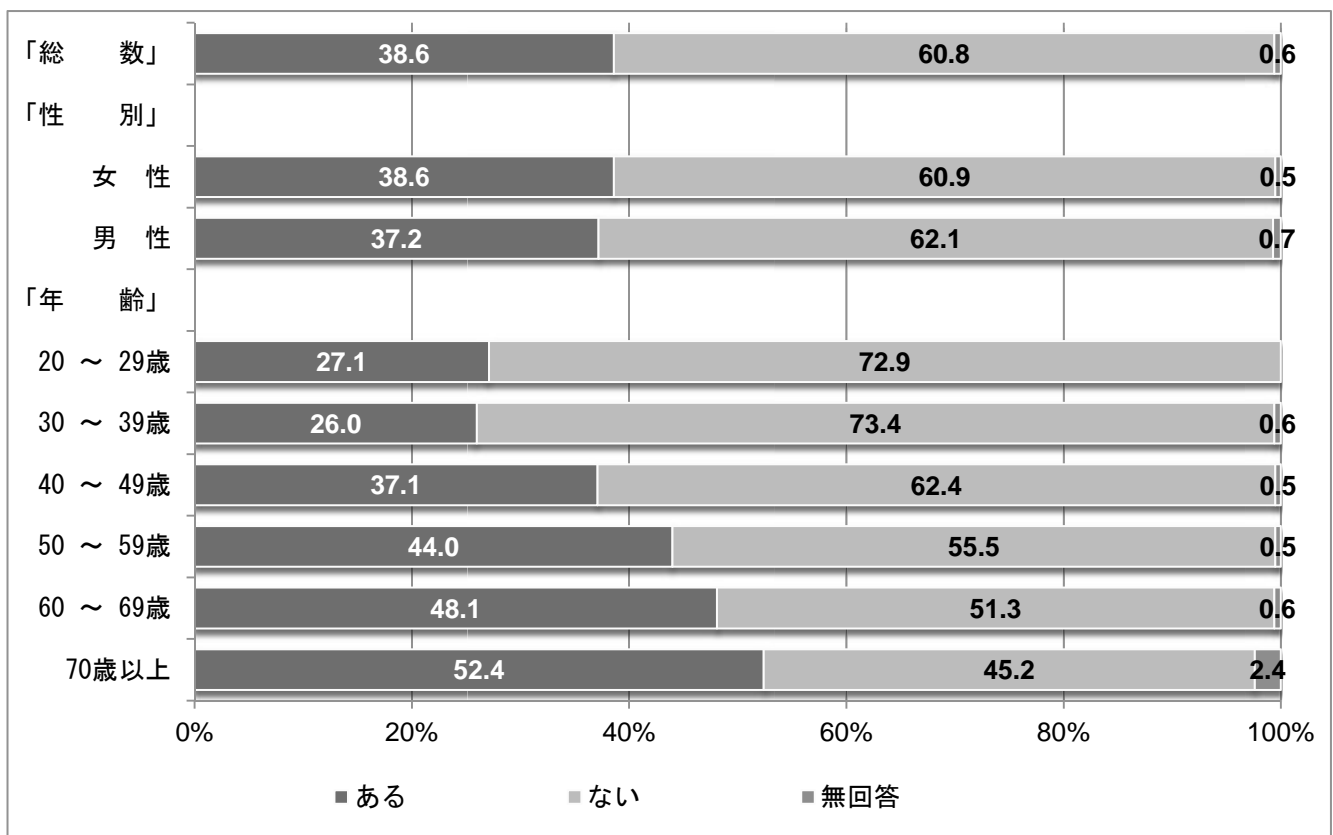
【全体】

職場の女性に関する事柄のうち、「責任ある仕事を任せない傾向がある」が31.6%（前回39.9%）、「教育訓練の機会が少ない、その内容が異なる」が38.6%（前回45.2%）、「能力を生かせる機会や配置転換が少ない」が43.4%（前回52.6%）、「男性に比べて昇進・昇格が遅い」が55.5%（前回62.9%）、「結婚・出産を機に退職する習慣や圧力がある」が31.9%（前回37.4%）、「女性の上司の下で仕事をするには、正直抵抗感がある」が25.9%（前回30.7%）となっており、いずれも前回調査より低下しており、女性にとっての職場環境が一定改善されていることが伺える。

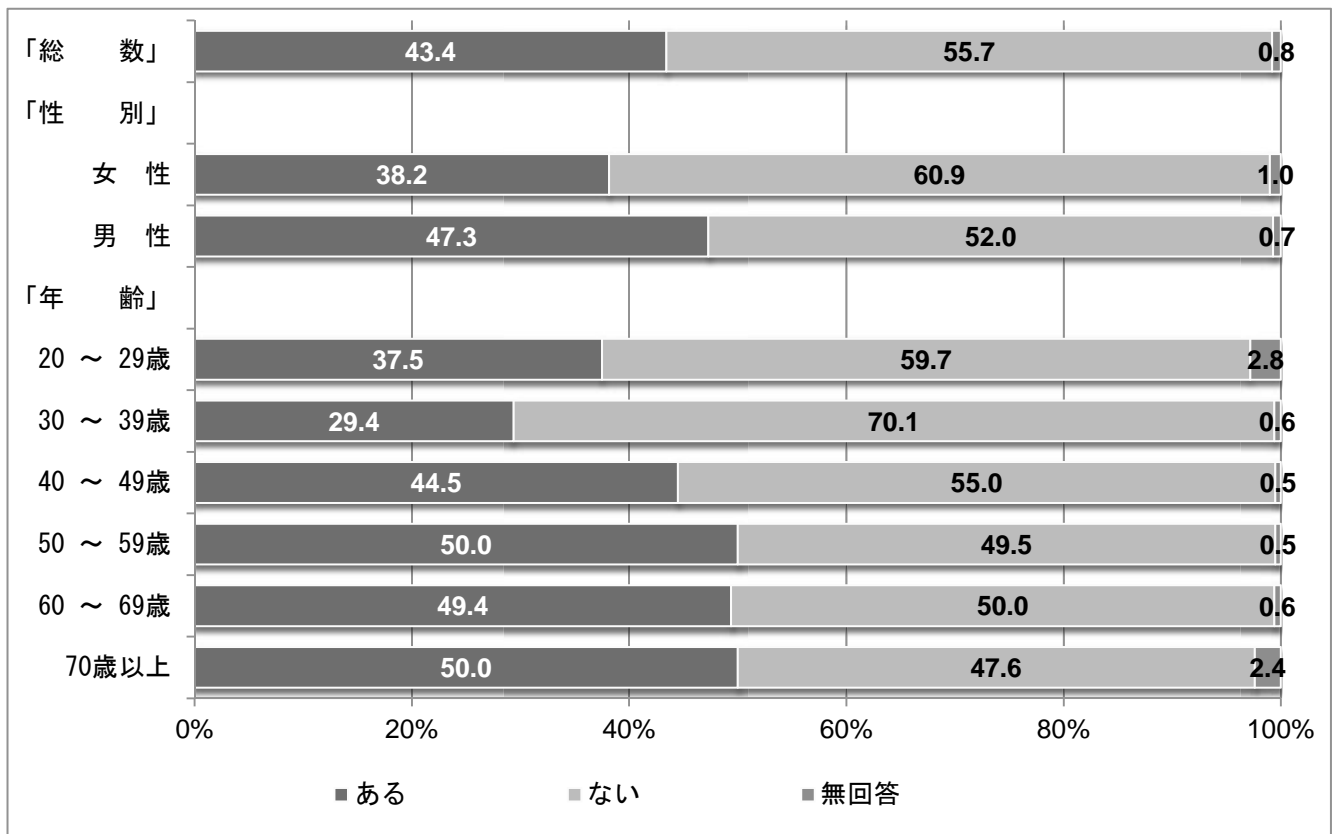
(1) 責任ある仕事を任せない傾向がある



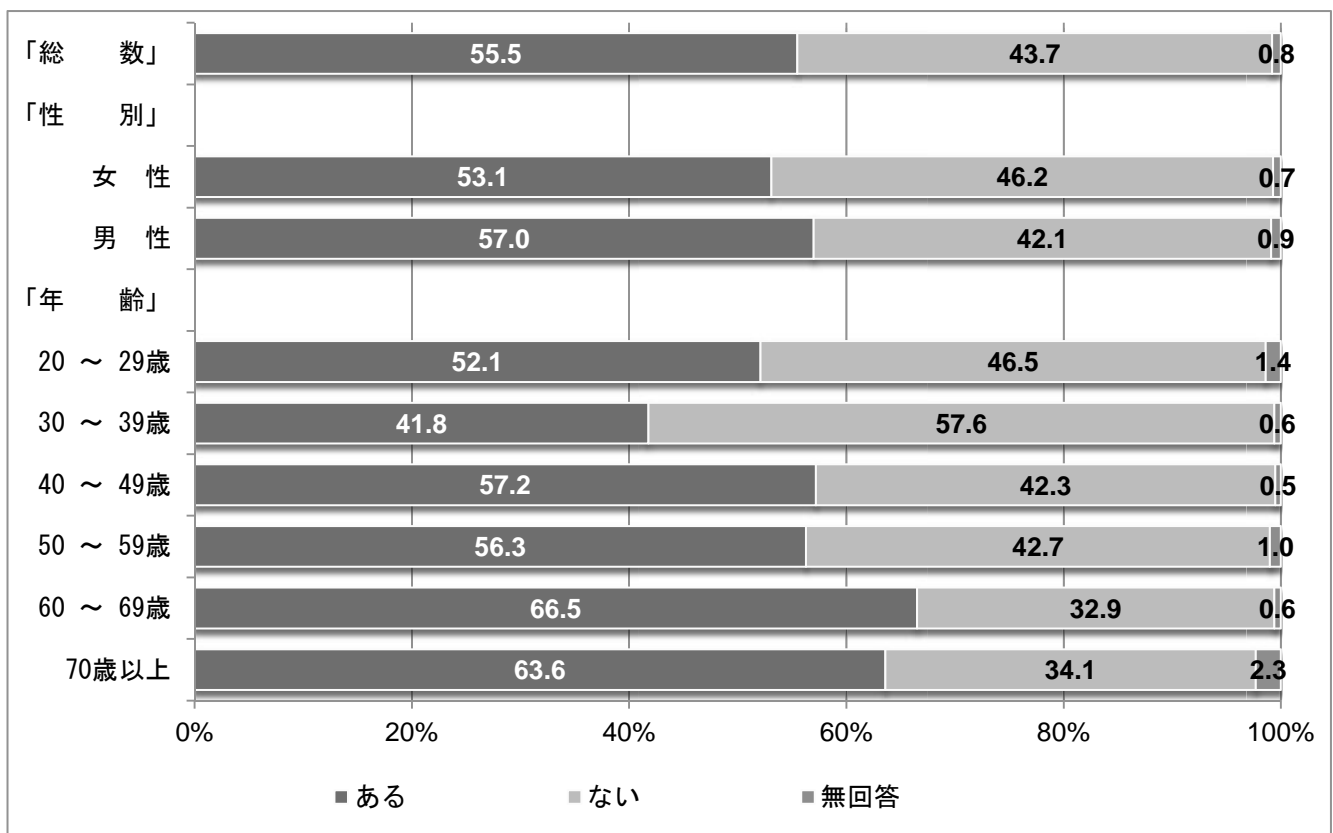
(2) 教育訓練の機会が少ない、その内容が異なる



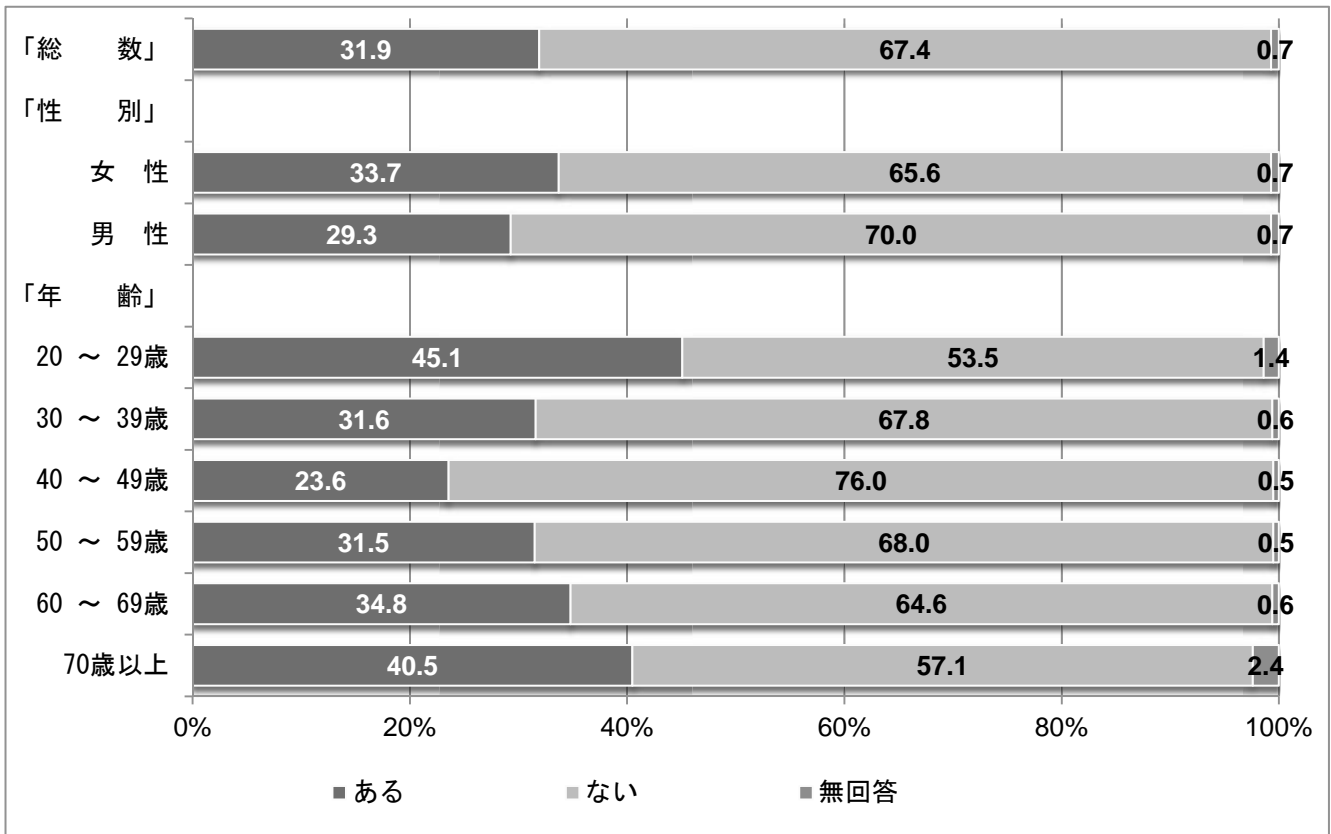
(3) 能力を生かせる機会や配置転換が少ない



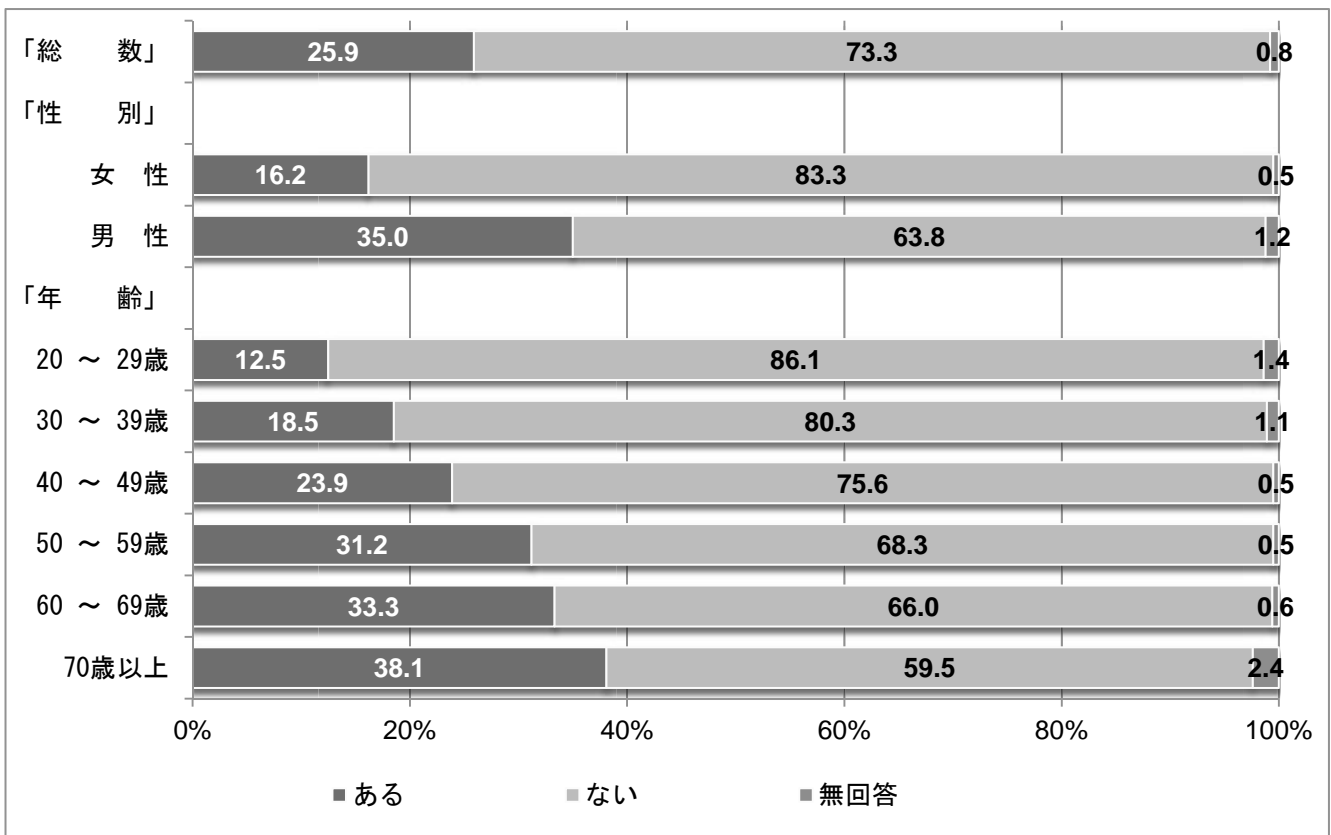
(4) 男性に比べ昇進・昇格が遅い



(5) 結婚・出産を機に退職する習慣や圧力がある



(6) 女性の上司の下で仕事をするには、正直抵抗感がある



(7) 女性に対し身構えたり、甘やかしたりする上司や同僚がいる

